

with casa

casa project special issue

I LOVE DESIGN.
I LOVE □.



シンプルで美しい、四角い家
casa cube



シンプルで美しい、四角い家

casa cube contents

STORY casa cube はこうして生まれた ___p.6

PHILOSOPHY casa cube に流れるフィロソフィー ___p.12

窓についての新しい考え方 ___p.14

土地を選ばない ___p.18

四角い家は無駄がない ___p.22

まったく新しいハイグレードな商品住宅を ___p.26

COLUMN 01 日本人の人生に負担をかけない「家」 ___p.30

COLUMN 02 次世代のために遺す美しい「家」 ___p.31

DESIGN いい家はシンプルで美しいデザインから生まれる ___p.32

究極の家のカタチがここにある ___p.34

細部にとことんこだわった上質なインテリア ___p.40

美の真髄は窓にあり ___p.46

階段も建具も美しい家 ___p.50

使いやすいと評判のキッチン ___p.54

こだわり抜いたデザインは家のいたるところに ___p.60

FUNCTION 「快適&暮らしやすい!」家づくり ___p.62

夏は涼しく冬はあたたかい家 ___p.64

室内の空気はいつも新鮮 ___p.68

家族の安心・安全を大切に考えた家 ___p.72

COLUMN 03 メンテナンス費用を軽減できる家 ___p.76

PLAN シンプルで美しく暮らしやすい間取り ___p.78

4×4 ___p.80

3×5 ___p.82

4×5 ___p.84

5×5 ___p.85

基本のプラン以外にもさまざまなプランを用意! ___p.86

COLUMN 04 子供の成長に合わせて間取りを変えられる家 ___p.88

価値ある住宅のお値段は? ___p.90

価値ある「35年」を試算しよう ___p.91

家づくりの諸費用を知ろう ___p.92

家づくりの流れを把握しよう ___p.94

家づくりのマナー ___p.96



I LOVE

I LOVE



DESIGN.



シンプルで美しい、四角い家

casa cube



2009年、「casa cube」という名の住宅が誕生し、日本の住宅業界に激震が走った——。

というとおおげさだけれど、かなりの「驚き」をもって迎えられたことは事実のようだ。人は何に驚いたのだろうか。

まずはその見た目だった。

「この真っ白で、真四角な箱は何？」

そんな疑問が多くの人に浮かんだ。

それは装飾が極限まで削ぎ落とされた姿だった。

ファサードからは窓が見当たらず、建物の横にまわってみると、黒い数本の線が垂直に立ち上がっていた。

高級車のエクステリアの要となるキャラクターラインのごとき美しいラインが伸びていたのだ。

そのラインはもちろん飾りではなく、細長いスリット窓だった。

こうした casa cube の外観はすぐさま世の「デザイン好き」を虜にした。

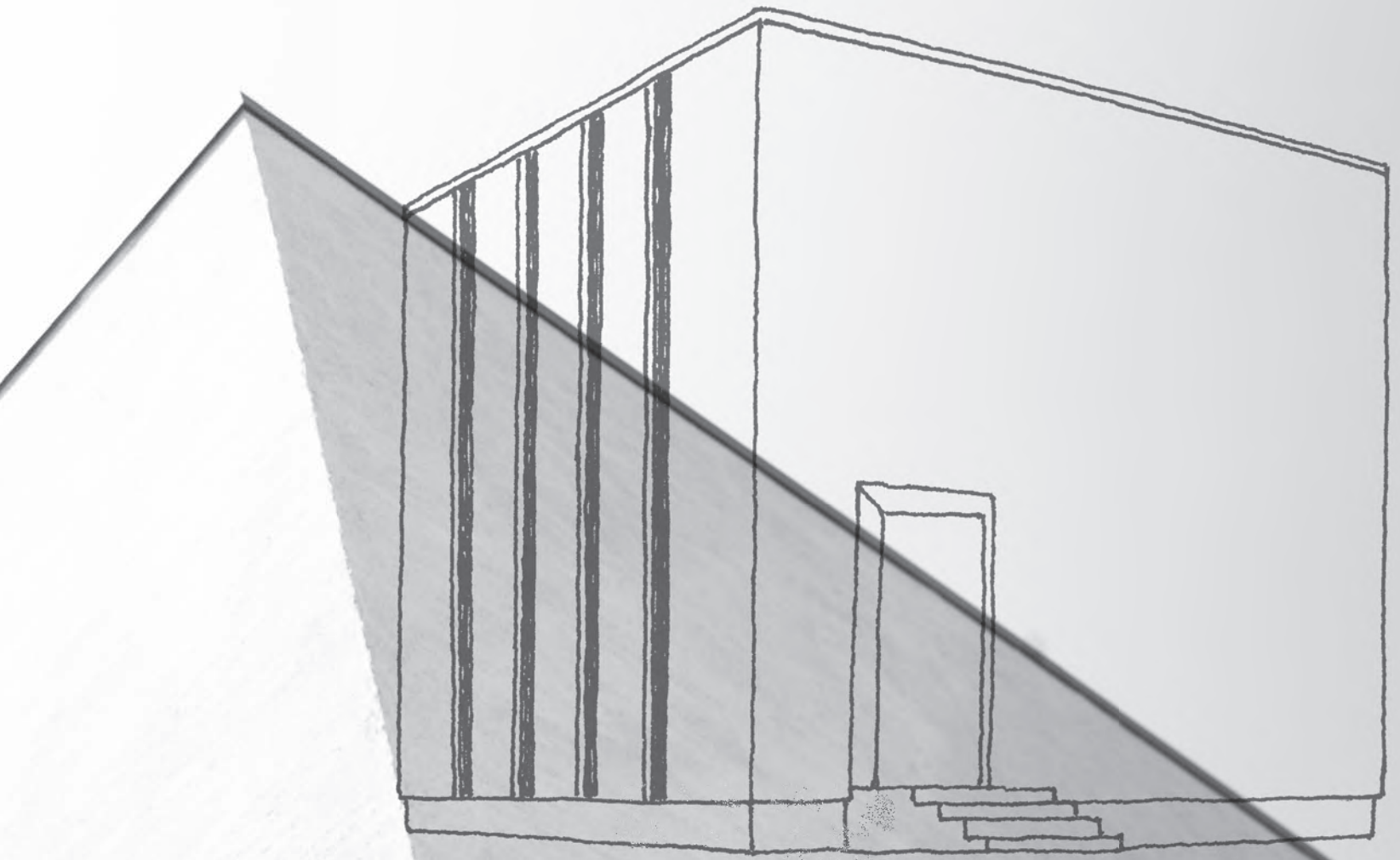
そして家の中に入ると人々は再び驚いた。

外からは大きな窓があるように見えない。だから「家の中が暗いのでは？」という疑念を多くの人を持ったに違いない。

ところが casa cube の家の中は信じられないほど明るかった。

天窓から降り注ぐ光が家中を明るく照らしていたのだ。





casa cubeは
こうして生まれた

STORY





こうした casa cube がもたらす「驚き」は
実はほんの一部だった。

この家を知れば知るほど

驚きと喜びに満ちた家であることがわかるのだ。

casa cube は次のようなテーマを掲げている。

I LOVE DESIGN. I LOVE □.

「□」とはもちろん cube（四角）であり、casa cube のこと。

この「□」には「家づくり」ならびにそこでの「暮らし」に
ありとあらゆる「思い」や「夢」がつまっている。

その「□」は一つの理想形ともいえる。

四角という形はシンプルで美しく

それでいて耐震面での強さもある。

一見なんでもない「四角」のように見えて

家づくりのプロが考え抜いた

「理想の形」が casa cube なのだ。

さらには「□は可能性に満ちている」ともいえる。

白い壁が多い casa cube のインテリアは

そこに大きな絵をかけたたり

趣味の自転車をかざったりと、

住む人それぞれで無限の使い方がある。

また、家の形が「□」だからこそ間取りの自由度が大きく

将来的にも家族構成の変化にあわせて

自在に間取りを変えることができる。

もっといえば「□は最良のツール」でもある。

断熱をはじめとした快適に暮らすための性能が高く、

安全面での配慮も万全だ。

使い勝手という点では、たとえば収納スペースが

十分すぎるほど確保されていることなどが挙げられる。



casa cube の開発には 2年の月日が費やされたという。
もちろん開発スタッフは
家づくりに何十年とかかわってきたプロの集団だ。
そんな精鋭たちが窓の役割について再考し、
土地と家の在り方を見つめ直し、
家の形には徹底して美しさと機能性を求め、
通り一遍ではない間取りを考案し、
ドア、階段、床などなど細部にわたって
高いデザイン性と実用性を追求した。
それでいて価格は驚くほどリーズナブルだった。
「注文住宅」とは違う、「建売住宅」とも違う、
「商品住宅」という新しいカテゴリーを創出した
casa cube だからこそ、なしえた価格なのかもしれない。
「商品住宅」である casa cube では
建材の流通コストや建設コストを抑えるための
新しい取り組みもなされている。



こうした一切合切が
このシンプルで美しい四角い家には詰まっている。
現在では日本中のいたるところに casa cube が建つ。
casa cube は誕生から 10 年の時を経たが、
この 10 年間ずっと進化してきた家だ。
シンプルでベーシックな家づくりを基本としながらも
常に最新の建材や技術を取り入れてきた。
以降のページでここまで述べてきた事柄を
詳しく掘り下げていくが、
これから紹介する casa cube のさまざまな特徴は
ある意味、実際に casa cube にお住まいの方々の
実感を含んだものでもある。
本書が、casa cube という家を知る手立てとしてはもちろん、
「家選びないし家づくりとは何か」を
知るための一助になっていれば幸いである。



casa cubeに流れる フィロソフィー

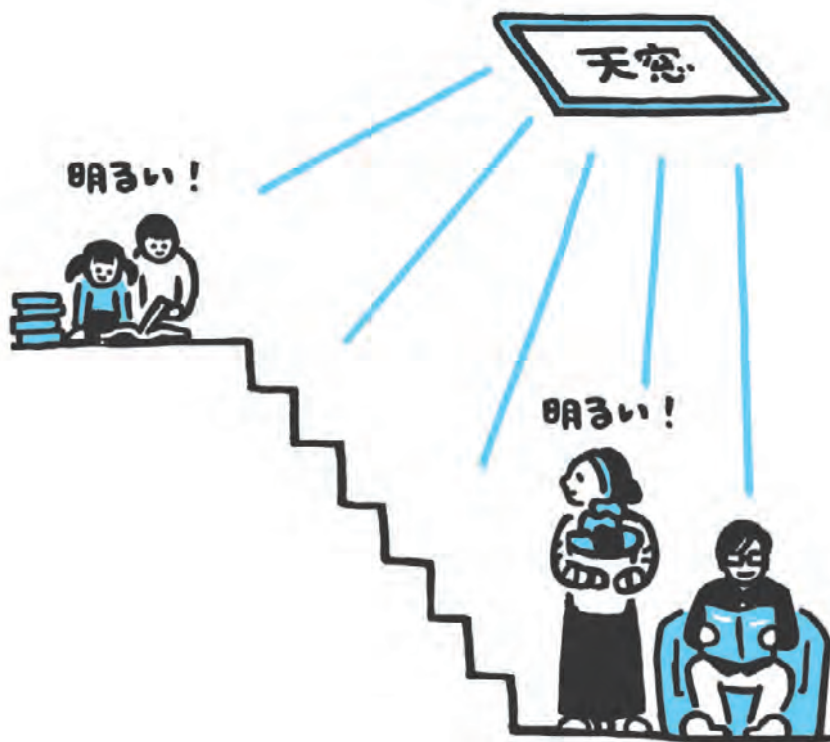
PHILOSOPHY

これまでの常識や慣習を打ち破る住宅「casa cube」。
それは革新的な「家づくり」の思想から生み出されたものだ。
ここでは「casa cube」の真髓を知るための、
4つのフィロソフィーについて掘り下げた。





窓についての新しい考え方



大きな窓があると外から室内が見えてしまい、プライバシーを確保できない。



外からの視線を気にしてカーテンを閉めてしまいがち。南側に窓を設けても意味がない。



住宅の密集地では窓を開けても、見える景色は隣の家やマンションばかり。



その窓は本当に必要なの？

「南向きの大きな窓」という誤解

南向きのリビングに大きな窓があって、光が燦々と入り込む家。それが一般的に考えられている「いい家」。

しかし、本当にそうだろうか？

casa cube は「窓」を見直すことから始めたのだ。

窓の役割とはおもに3つ。

「光を採り入れる」

「風を通す（換気）」

「景色を見る」

たくさんの光を入れるためには、南向きの土地を選ぶのがベスト。とはいえ南向きの土地は割高で、予算も多めに見積もらなくてはならない。ようやく南向きの土地を手に入れ、南側に大きな窓を付けたのはいいけれど、外からの視線を気にしてついカーテンを引いてしまうことも。そうすると当然、光は入らなくなる。

換気に関しては現在、建築基準法で24時間計画換気が義務付けら

れており、室内には常に新鮮な空気が回るようになっている。建築技術の進歩により窓を開けて空気を入れ替える必要はなくなった、ともいえる。

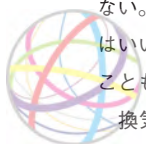
家の窓から景色を見たいという人も多いだろう。しかし、都心に近い場所では景観の良い土地は手に入りやすく、窓からの景観はさほど望めない。大きな窓があることで、逆に外から家の中を見られるという心配のほうが大きくなるかもしれない。

土地の値段の高さや建築技術の進歩といった社会の変化などで、「窓の定義」が大きく変わってきている今、はたして「南向きの大きな窓」は本当に必要なのか。「窓」について、改めて考えなければいけない時期にきているのではないだろうか。

大きな窓のデメリット

実は大きな窓を設置することで、いくつかのデメリットも生じる。その一つが「構造」だ。

壁に大きな窓を取り付けると構造が弱くなるため、太い柱や間仕切





casa cube に設けられた天窗。この天窗のおかげで、室内は驚くほど明るい。

常識を覆す、革新的な家の誕生

り壁が必要となり、余分なコストがかかってしまうことも。

次に「断熱性」が挙げられる。

窓が大きければ大きいほど室内の熱効率は悪くなる。近年では断熱性能の高いガラスも出ているが、コストアップを覚悟しなければならぬ。

そして「防犯性」だ。

犯罪者の多くは窓から侵入するといわれている。セキュリティ会社と契約して防犯するという方法はあるものの、その契約料は決して安くはない。

こうして「窓」について考えた結果、casa cube では大きな掃き出し窓を設けないことにしたのだ。

ともすれば今までの家づくりの常識を覆す、とてつもないチャレンジかもしれない。しかしその挑戦の果てに生み出されたものは、従来の家づくりに比べ高性能で余分なコストがかからない、まったく新しい家だったのだ。

いいことづくめの casa cube の窓

casa cube では採光は天窗から行う。天窗から入る光の明るさは壁面の窓の約3倍もあるといわれている。

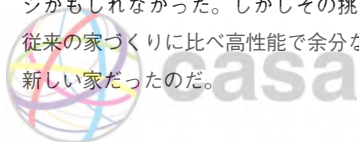
つまり天窗からの光のほうがはるかに明るいのだ。

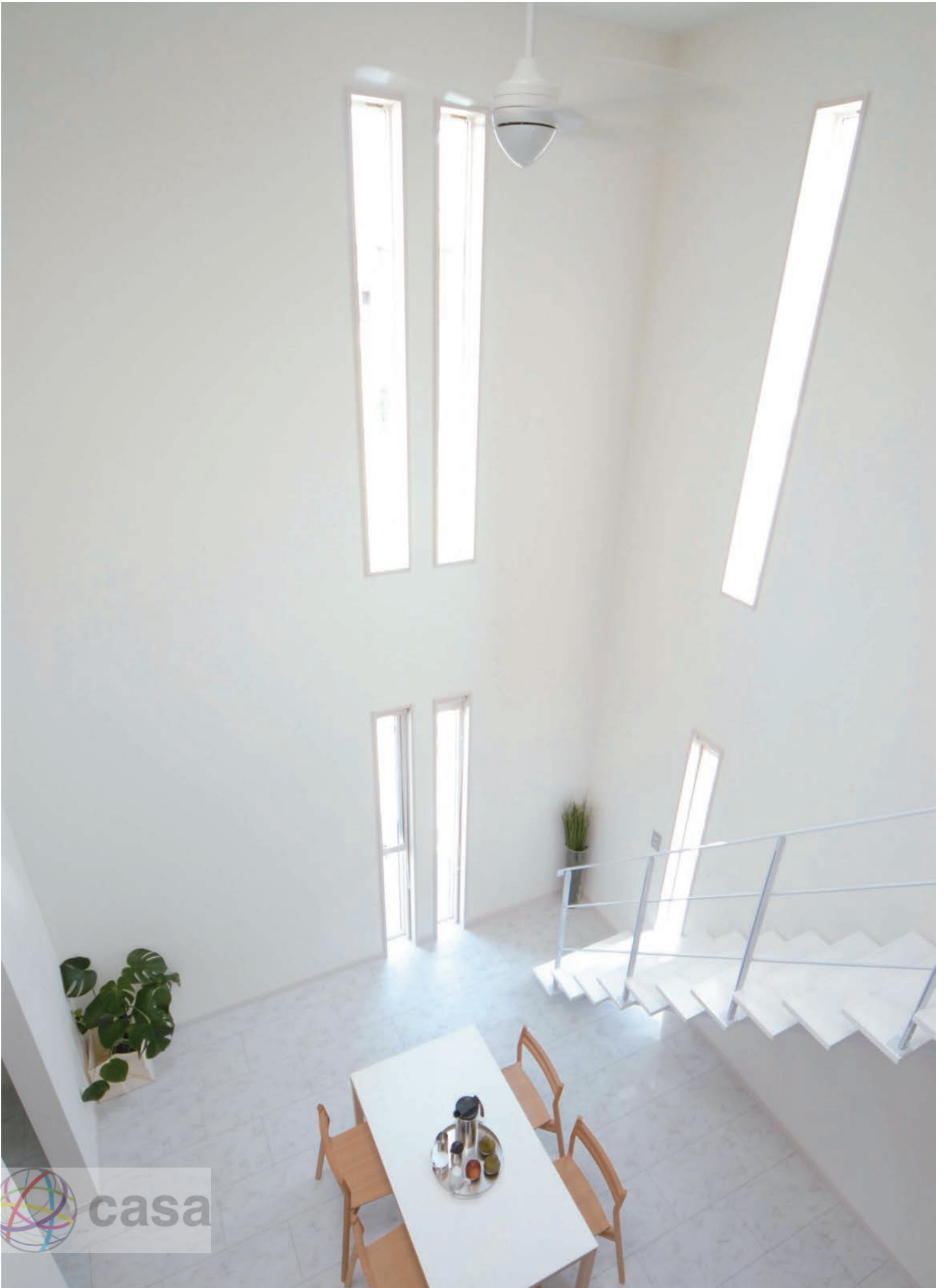
また24時間計画換気をグレードアップさせたセントラル換気システムの導入により、窓を開けなくても換気に問題はない。

そして天窗に加え、ガラス幅15cm、有動開口幅11.3cm(※)のスリット窓が多数設けられている。このスリット窓を開ければ、風が気持ちよく通り抜けていってくれる。このスリット窓についてはのちに詳しく述べるが、有動開口幅11.3cmのスリット窓からは人は侵入できず、外から覗かれる心配もなく、安全もプライバシーも守れる。

大きな窓がないことで室内の熱も逃げず、壁の構造も強くなっている。太い柱も、高性能な窓も、セキュリティ会社との契約も必要ないのだ。

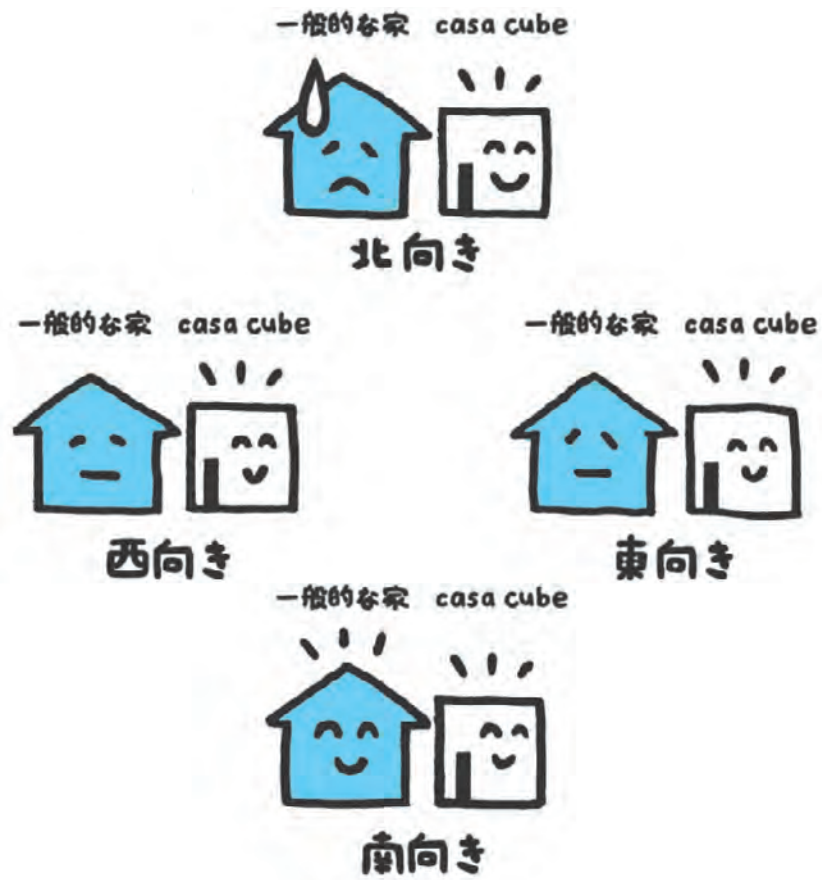
※防火仕様の場合は、幅が異なります。





PHILOSOPHY 2

土地を選ばない



〔南側に建物が建っている土地〕



casa cube



一般的な住宅

〔周囲に大きな建物が建っている土地〕

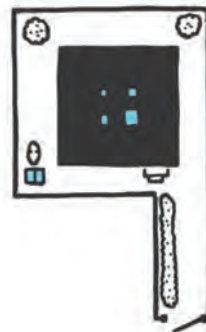


casa cube



一般的な住宅

〔形がいびつな土地〕



いい家は土地を選ばない

「東南の角地」が本当にベスト？

一般的に人気がある土地は、次のような土地だといわれてきた。

「東南の角地」。

これは東からも南からもお日さまが入る場所のこと。

東南の角地の次に人気があるのが「南向き」。その次が「東向き」、次いで「西向き」となる。

一番人気がないのが「北向き」の土地だ。

土地はその向きによって値段が変わる。人気がある土地はどうしても価格が高くなる。一番高い土地は前述した「東南の角地」で、一番安い土地が「北向きの土地」というのが相場だ。

ところが、casa cube の家はこうした土地の常識とは無縁でいられ

るので。

なぜなら、天窓から光を採り入れるため、土地の向きは関係ないから。つまり、北向きの土地でもまったく問題ない。これは大きな長所であり、家づくりの常識を劇的に変えた部分ともいえるだろう。

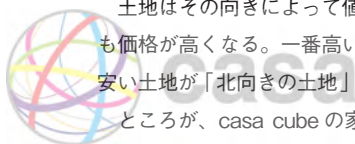
どの方角に向いている土地でも問題なし

casa cube の大きな特長のひとつに、前述した「天窓からの採光」が挙げられる。そのおかげで土地を選ばず、東西南北、どの方角を向いた土地に建ててもしっかり採光でき、明るい室内が実現する。

裏を返せば、次のようなこともいえる。

「casa cube は北向きの土地にも向いている」

南向きの土地は、日照権の関係で北側斜線を考慮しなければならな



[用途地域別 必要敷地面積 早見表]

casa cube のタイプ	低層住居専用地域				中高層住居専用地域		住居地域		商業地域	
	建ぺい率	容積率	建ぺい率	容積率	建ぺい率	容積率	建ぺい率	容積率	建ぺい率	容積率
	40%	60%	50%	80%	50%	150%	60%	200%	80%	400%
4×4	47.5 坪		35.6 坪		32.1 坪		26.7 坪		20.1 坪	
3×5	46.0 坪		34.5 坪		30.1 坪		25.1 坪		18.8 坪	
4×5	57.2 坪		42.9 坪		40.1 坪		33.4 坪		25.1 坪	
5×5	62.7 坪		50.1 坪		50.1 坪		41.8 坪		31.4 坪	

※ casa cube のタイプの詳細は P.78～87を参照。

※建ぺい率と容積率は一例。

※敷地形状によっては上記の限りではありません。

土地代が安くすむ家づくり

いため、同じ建築面積の家を建てるとしても、北向きの土地よりも余分な敷地が必要となる。

安価な北向きの土地であれば北側斜線を考慮する必要もなく、土地代を大幅に節約することもできるのだから、経済的メリットはすこぶる大きいはずだ。

狭小地、変形地にも建てられる

casa cube は敷地を最大限に使って効率化を図った総2階の家で、必要な敷地面積を最小限に抑えているので、広い土地を買えなくても問題ない。

気に入った casa cube シリーズの必要な敷地面積に合わせて、土地を選ぶことも可能だ。立地がよくても土地が狭かったり、変形した土地だったり、周囲に高い建物が建っているせいで日当たりが望めない住宅密集地のような土地でも、casa cube に必要な敷地面積さえ確保できれば、そこに快適な住空間が生まれる。

また、そのような土地は安価であるがゆえに、casa cube なら土地代を安く抑えられるともいえるのだ。

casa cube を住居地域で建てるために必要な敷地面積は、たとえば「casa cube 4×4」のモデル (P.80参照) で26.7坪 (それぞれ、建

ぺい率60%、容積率200%の住居地域の場合)。一番コンパクトな「casa cube 2.5×5のモデル」(P.86参照) で20.9坪。

これは狭小地やいびつな形の土地でも十分建てられることを指し示している。

光が上から降り注ぐことで、南側の土地を広くあける必要がないため、従来の土地選びの常識にとらわれることなく、安価な土地ないしお得な土地選びを可能にしたのが、casa cube の家づくりといえる。



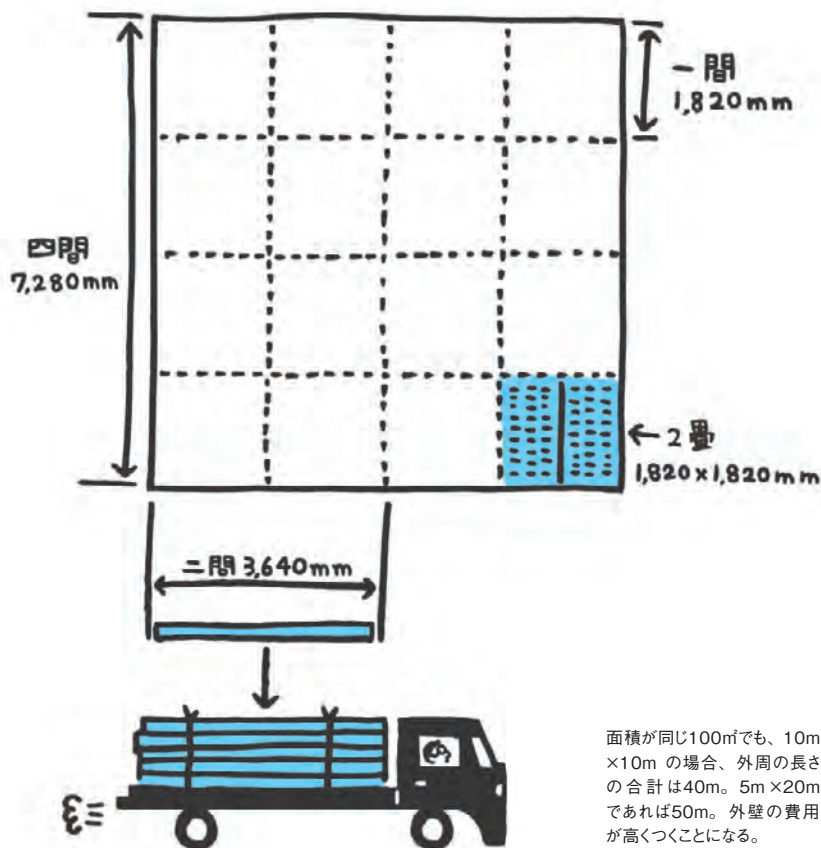


PHILOSOPHY 3

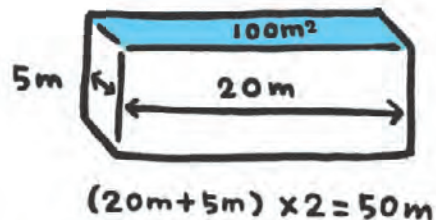
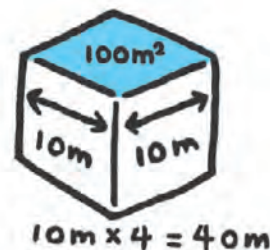
四角い家は無駄がない

ぴったり無駄がない





面積が同じ100㎡でも、10m×10mの場合、外周の長さの合計は40m。5m×20mであれば50m。外壁の費用が高つくことになる。



「四間真四角」の家は超優秀！

材料費も運搬費も無駄がない家

家づくりに使う資材や設備などの質を落とさずに、費用をどう削減するか――。

たどり着いた答えは徹底して「無駄をなくした家づくり」だった。それは住宅の大きな経費である材料費、工事費、人件費の大幅削減へとつながった。

casa cubeの家づくりの基本は「四間真四角」の家。

「四間」とは、日本の家づくりに使われている基本サイズである1間（約1,820mm）の4倍。1間とは、市場にいちばん多く出回っている材木の寸法でもある。

1間の倍、つまり2間（約3,640mm）の材木であれば、トラックにも積載可能。2間で四角を作って、4間（約7,280mm）四方の家

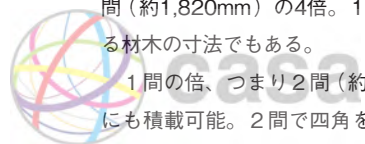
を建てれば、建材に無駄が生じることはなく、材料費、運搬費ともに最小限に抑えることができる、という考えが casa cube の家づくりにある。

また日本の住宅は、1階よりも2階のほうが面積が狭い場合が多い。そうすると床面積や屋根面積が広くなり、基礎工事や屋根にかかる費用がかさむこともある。そこで casa cube は、それらのコストを最小限に抑えるため、必要な敷地面積を最小限にした総2階の家を基本としているのだ。

流通コストの削減にも成功

casa cube は、「casa cube ネットワーク」に加盟している全国の工務店によって建てられている。

たくさんの工務店が同じ家をつくるため、さまざまな建材を工場で



[建材が届くまでの流れ]



※ 部材によってはこの限りではありません。

建築費用が安くすむそのワケは

大量生産することができる。加えて、使う色や寸法もある程度規格化されているため、これまた工場で大量に製造しやすく、コスト削減という大きなメリットを得ることを可能にしている。

家づくりにおける物流の流通過程の中間マージンを見直したことも、コストを削減できた要因の一つだ。

これまでの家づくりにおいて、建材は、建材メーカー、商社、問屋などを経て、ようやく工務店に届いていた。当然、その過程で中間マージンがかかった。

しかし casa cube の場合、建材メーカーもしくは商社から直接工務店に届くので、無駄な中間マージンがかからないという、とてもスリムな流通の仕組みを構築することができたのだ。

工事費もぐんと節約

工事費においても、casa cube は建てるうえで非常に効率がいい家だ。なぜならそれは、無駄な凹凸のない四角い家のため、現場での作業効率がぐんと上がり、そのぶん職人さんがしっかり仕事ができるというわけだ。

人件費という点では、建築手順を1日単位で定めたことにより、工期を短くすることができたため、工事にかかる人件費を大幅に削減で

きている。

設計・デザイン、間取り、仕様なども最初から決まっているため、設計士に設計料を支払う必要がなく、間取りや仕様の打ち合わせによる人件費も最小限で済むのが casa cube の家づくりなのだ。



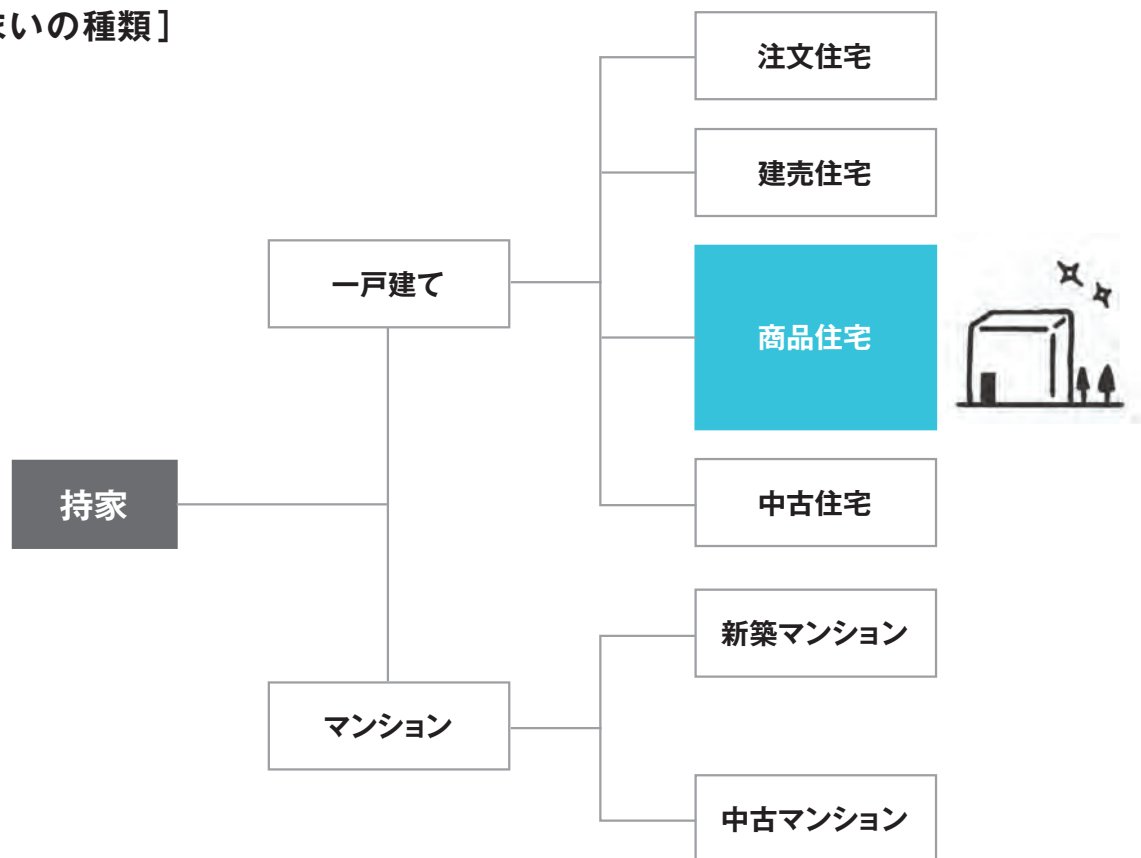


PHILOSOPHY 4

まったく新しい ハイグレードな商品住宅を



[住まいの種類]



これからの家選びは「商品住宅」

フルオーダーメイドの家が本当に必要？

自分にぴったり合ったオーダーメイドの洋服はとても魅力的だけれど、その対価として支払いはどうしても高額になりがち。

安価な既製品でも生地がしっかりしていてデザインが気に入れば、そちらを買いたいと思うのが普通感覚だろう。

それは住まいでも同じだ。

住まいの種類には「新築マンション」「中古マンション」「建売住宅」「中古住宅」「注文住宅」がある。これらの住まいを大きく分けると、注文住宅とそれ以外に分けることができる。洋服になぞらえるなら、「オーダーメイドの洋服」と「既製品の洋服」がそれぞれにあたる。

ここでは、注文住宅以外の住宅を「商品住宅」としている。

この「商品住宅」とはカーサ・プロジェクト独自の呼び名で、大雑把にいうと、「規格が決まっている住宅」のことである。

注文住宅とはここが違う

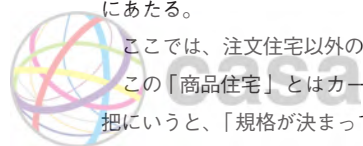
注文住宅は間取りや仕様を自分で自由に決めることができるものの、その分、それに見合った費用がかかる。

設計士に設計を依頼しなくてはならないので、建築費用とは別に設計料も必要。そのほか、設計プランの検討、間取りや仕様の打ち合わせなどにも膨大な時間と労力がかかる。最終的に建築費用がいくらかかるのかははっきりしない場合もある。

注文住宅の場合、住んでみてはじめて使い勝手が悪いことに気づく、なんていうことも考え得る。

工期が長く、できあがるまで、はたまた住んでみるまでどんな家なのかかわからないというのも、注文住宅ではやむを得ないことなのかもしれない。

そうしたことは対照的に、casa cubeは基本となる設計やデザインはすでにつくり上げられている。





建築家が手がけたこだわりの注文住宅と比べても、まったく遜色のないインテリアの仕上がり。この品質を低価格で享受できるのが、casa cubeの魅力の一つ。

リーズナブルで明確な価格

一軒ごとの設計料はもちろん不要。間取りや仕様もベースとなるものが決まっているし、素材選びに苦労するということもない。打ち合わせは最小限で済むのだ。

また先述したように、工期も短く、材料費、人件費をはじめ、経費の無駄を徹底して排除しているため、品質のよい家をリーズナブルに建てることができる。

建売住宅とはここが違う

では、一般的な「建売住宅」と「casa cube」とでは、どこが違うのだろうか。

たしかに建売住宅のなかには驚くほど価格の低い家がある。しかし、そうした家の多くは設備・仕様などグレードの高いものを使っているとは言い切れないのが現状だ。

一方の casa cube はどうかというと、設計士が家の隅々まで吟味して設計・デザインを行い、グレードの高い設備や仕様となっている。

塗り壁の外壁をはじめ、室内の洗練されたデザインの建具、システムキッチンや洗面化粧台などの住宅設備機器など、casa cube ではハイグレードなものが採用されているのだ。

通常の建売住宅は、土地・建物まとめて「×××万円」と表記されており、土地がいくらなのか、建物がいくらなのか、はっきりしていない場合もある。建物価格がわからないため、グレードに比べて価格が高いのか低いのか、たいへん判断しにくくなっている。

その点、casa cube は建物価格やオプションの価格がはっきり表記されている。そのことで、予算に応じた土地価格の設定や、オプションの追加が可能となり、安心して検討できるというわけだ。

このように、商品住宅である casa cube は、できあがった家を見て決めることができるため、家選びに失敗がない。

カーサ・プロジェクトには全国で400社以上の工務店のネットワークがある。つまり、全国でどこでも同じ品質の家を建てるのが、casa cube という名の商品住宅なのだ。



日本人の人生に負担をかけない「家」

驚くべき日本の住宅事情

日本の住宅の寿命をご存知だろうか。近年まで日本の住宅の寿命は、なんと約26年といわれてきた。この数字は先進国の住宅事情と比較すると、驚くほど「短い」ということがわかる。

たとえばイギリスが約75年、アメリカが約44年というデータがある。

おそらく日本の二十数年という数字は、先進国のなかで最低ランクの「住宅寿命」の短さだろう。

子どもや孫の世代まで

欧米ではライフスタイルに合わせてリフォームが繰り返され、もちろんメンテナンスなども施されながら、子どもや孫の世代まで長く大切に使用されるのが「住宅」という存在だ。しかし、日本はどうだろう。

何千万円というお金をかけて家を建て、35年の住宅ローンを組んだりするのに、ほんの二十数年で建て替えてしまう。

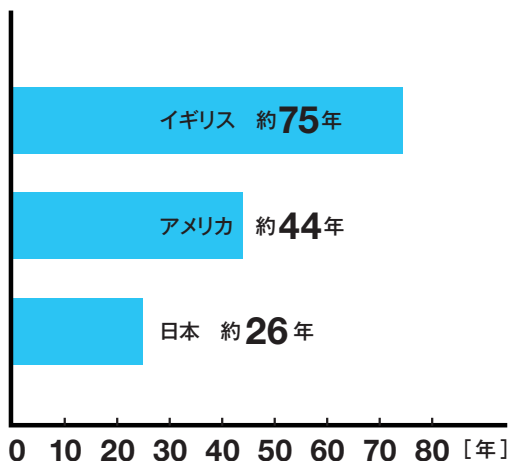
当然、子や孫にも残せないのが日本の住宅事情だ。

低価格、機能的、美しいデザインを

日本の住宅は果たしてこのままでいいのだろうか。もっと安く、機能的で、長持ちをし、子や孫に残せる住宅が、日本には必要なのではないだろうか。そんな家を実現すべく、誕生したのが casa cube である。

コスト削減により価格を低く抑え、機能的でデザインも美しく、200年住み続けられることを目標に家の仕組みが考えられている。「人生に負担をかけない」家。それが casa cube だ。

[各国の住宅の平均耐用年数]



平成13年度 省資源・長寿命化住宅に関する技術動向調査



次世代のために遺す 美しい「家」

ロングライフ住宅

日本は「つくっては壊す」「使っては捨てる」という、ある意味、消費大国だ。それにより産業廃棄物の増加、CO₂の排出量拡大といった環境問題が叫ばれて久しい。

それは住宅をつくるときも同じで、大きなエネルギーの消費はどうしても避けることができない。

そんななか、住宅業界では経済的にも環境的にも質の高い「ロングライフ住宅」が求められるようになってきた。

「長く使う」ために

casa cube のプロジェクトも、日本の伝統に学び、気候風土に寄り添い、可能なかぎり環境に負荷がかからない家づくりを目指している。わかりやすい言葉に置き換えると次のようになる。

「いいものをつくる」。

「きちんと手入れをする」。

「長く使う」。

こうしたことを実現するために、家の性能が将来まで持続する建材や資材を選ぶ。

山から切り出された木材が建築現場まで運ばれる過程を一部省略することで資源の無駄遣いを防ぐ。自然に学び、季節とともに歩み、土地や環境を有効活用するプランを考案する。

ストック型の社会へ

このように、地球に負担をかけない家づくりを目指している casa cube。そして、さらなるロングライフ住宅化を願い、「消費型の社会」から「ストック型の社会」へと向かうべく、知恵と工夫を重ねているのだ。それもこれも、次世代に美しい家を遺すために。



いい家はシンプルで美しい デザインから生まれる

DESIGN

casa cube の徹底したデザインへのこだわり。
それはひとえに「住みやすさ」を追い求めた結果。
だからこそ「家の形」はもちろんのこと
「外壁」や「床」や「階段」にも
casa cube ならではの美しいデザインが生まれているのだ。





大きな
天窓!!

究極の
カタチ!

階段も
上り下り
する姿も
サマになる!

こんな使いやすい
キッチンが夢だった

DESIGN 1

究極の家のカタチがここにある

ひと目見たら忘れることのできないそのカタチ。
シンプルさを極めたような casa cube の外観の
その裏側にはさまざまな家づくりの叡智が注ぎ込まれている。









正面は一面塗り壁だが、建物の側面にまわると、窓のスリットラインがシャープで美しい印象を与えている。

機能に従ったその美と形

驚くべきシンプルさ

「四角い箱」

これが casa cube の外観を端的に言い表したものだ。そしてこの「四角い箱」を目にした人の多くが次のような言葉を口にする。

「シンプル」

「美しい」

casa cube のこうした印象を形づくっているものは、やはりそのファサードだろう。一見すると casa cube の正面は、白い壁と玄関の入り口しか見えない。これほどまでに潔いデザインはなかなかお目にかかれないはずだ。

おおげさな言い方をすれば、「有名な建築家が建てた名建築」のようにはすら見えてくる。

このシンプルさ、あるいは端正な四角い形状は、デザインありきで生まれたわけではない。

機能に従い、現代の生活に即し、なおかつコスト面でも無駄がない

ように、計算しつくされて誕生した形なのだ。

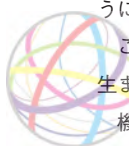
バウハウスとル・コルビュジエ

この casa cube は開発当初、ドイツで1919年に設立された「バウハウス」の考えを視野に入れていたという。

バウハウスでは合理主義と機能主義を徹底して追求した建築教育が行われ、その結果シンプルで美しい建物を後世に遺した。バウハウスの建築やデザインは世界中に普及し、今ではひとつのスタンダードにもなっている。

さらには、近代建築の巨匠ル・コルビュジエが手がけた名作「サヴォア邸」のコンセプトも、casa cube の開発の大切な指針の一つとなったようだ。

「バウハウス」「ル・コルビュジエ」、いずれにしろ、そこにあるのは合理性であり、美しいデザインであり、そしてシンプルさだ。casa cube の外観は斬新に見えるが、実は世界の建築物のスタンダードに沿ったデザインというわけなのだ。



casa



写真左が casa cube のスタンダードカラーとなる白（スノー）の塗り壁で、右が黒（ブラック）の塗り壁。白色（スノー）からはじまった casa cube は、現在では下のイラストのように、「ストーンエイジ」「ジンク」「カーキ」「フェズリー」「ブラック」と全部で6つのカラーバリエーションが用意されている。*ブラックはオプション。



スノー



ストーンエイジ



ジンク



カーキ



フェズリー



ブラック





© Takashi Images/PIXTA

フランス・パリ郊外に佇む「サヴォア邸」

ル・コルビュジェが設計、1931年に竣工。20世紀の住宅における最高作品のひとつとされ、フランスの歴史的建築物にも指定されている。合理性をモットーとしたル・コルビュジェの思想と造形手法は、世界中に浸透した。

丁寧に塗り上げてつくる総塗り壁

casa cube は近づいて見てみると、実はとても豊かで美しい表情があることがわかる。

その理由は塗り壁だ。

casa cube の外壁は、優れた職人が丁寧に塗り上げてつくる、総塗り壁仕上げ。世の中に二つとない外壁の仕上げだ。

通常、日本の住宅の外壁には、サイディングなどのパネル系の壁を使うことが多いようだが、casa cube ではあえて塗り壁にすることで、重厚感のある仕上がりになっている。

サイディングなどのパネル系の外壁は、ジョイント部分に雨水の浸入を防ぐためのコーキングを施す。ただしそのコーキングは10年前後で劣化するケースがあり、打ち替えなどのメンテナンスが必要で、費用もかなり高額になる。

もちろん塗り壁もメンテナンスは必要だが、コーキングの劣化によるものではなく、窓からの雨だれなどが原因。見た目が汚くなったか

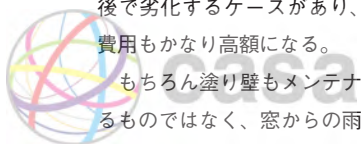
ら塗り替えるという場合がほとんどだが、casa cube は窓の横に雨を下へと伝わせる縦長のスリット板金があり、雨だれも目立ちにくい構造になっている。要するにメンテナンスも最小限で済む「外壁」というわけだ。

実は「優れモノ」の外壁

家は、強風が吹いたり、大型トラックが通ったりしたとき、細かく揺れる。この揺れが外壁に伝わると、細かいクラック（ひび）などが発生する原因となる。

casa cube では対策として、外壁の下地に発泡スチロールを仕込んでいる。発泡スチロールがそれらの衝撃を吸収してくれるので、クラックが入りにくい。さらに軽量化の実現で地震の際に建物に与える負荷も軽減されているうえ断熱効果も十分あるという優れモノだ。

casa cube の「シンプルで美しい」その形は、こうしたさまざまな家づくりの知恵の一切切を内包しているともいえるのではないだろうか。





DESIGN 2

細部にとことんこだわった 上質なインテリア

個性的な外観に勝るとも劣らない casa cube のインテリア。
シンプルさにこだわったそのデザインは見た目だけでなく、
徹底して「暮らしやすさ」を追求した設計になっているのだ。





casa



石目調 木目調

特殊コーティングにより傷や汚れから床を守るシートフロア。天然素材の表情を豊かに表現した石目調と木目調の2柄がある。



バーチ(カバ) オーク(ナラ)

オプションで用意されている無垢のフローリング材は2種類。緻密で上品な「バーチ」、定番の高級材「オーク」。無垢の風合いを保ちつつ、撥水性の機能を併せ持ったコーティングが施されている。*オプション仕様

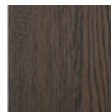
断面図



ホワイト ナチュラル



ウォールナット アンティークブラウン



断面図



高級材である無垢のホワイトオーク材を使用し、三層で構成された幅189mm、厚み4mmという贅沢で高級な仕様のフローリング。数十年後に研磨して塗装し直すことも可能。*オプション仕様

床も壁も収納も すべてに casa cube の デザイン思想がいきわたる

どんな家具とも相性が高い「床」

casa cube の室内は住宅を知り尽くした設計のプロが、とことん吟味してデザインしたハイグレードな空間が広がっている。床の材質や壁の色からちょっとした収納家具にいたるまで、美しさにこだわり、細部にわたって住む人のことを考慮したデザインなのだ。

ではまず床から見てみよう。テーブルやイスを引いた後に残ってしまった傷跡。経験のある方も多いだろう。意外と目につきがちな床のキズは、思いのほか長い付き合いになってしまうことも。

casa cube で標準仕様となっている床は、白を基調としたフローリングでどんな家具とも相性が高い。

また、表面に施された「強化フィルム+硬質バッカー」のダブル効果で、汚れが目立ちにくく、日常生活から生じる様々な衝撃や劣化、ペットの引っかき傷などから素材を守り、いつまでも美しいフローリングを実現。ワックス不要のメンテナンスフリーなので手間がかからず、掃除の簡単な床になっているところもうれしいポイントだ。



写真左が「白さ」にこだわったクロス（壁紙）。右が「卵の殻」「ゼオライト」「未焼成珪藻土」「つのまた糊」など天然素材を独自にブレンドした天然スタイル塗り壁。それぞれの成分が調湿や脱臭をはじめ、優れた機能を発揮してくれる。



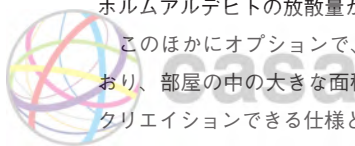
この標準仕様のほかに、オプションで「無垢フローリング」「三層フローリング」も用意されている。

白く、明るい空間を演出する「壁」

次は壁について。casa cubeの外壁と同じく、室内の壁も真っ白を基本としている。使われる真っ白な壁紙は、外部からの自然光や照明を反射させる効果があり、より白く、明るい空間を演出してくれる。壁紙ではあるものの、自然な風合いの塗り壁調なので、飽きにくく、どんなインテリアイメージにも違和感なくとけ込むことができる。

また、国土交通大臣認定のホルムアルデヒドの放散レベルがもっとも低いものにつけられる「F☆☆☆☆（フォースター）」を取得。ホルムアルデヒドの放散量が少ないので、安心して使える壁紙だ。

このほかにオプションで、天然素材を使った塗り壁も用意されており、部屋の中の大きな面積を占める壁を、住む人が思いのままにクリエイションできる仕様となっている。



壁面もアイデア次第で こんなに便利で楽しく!



大きな窓がないために壁面が多い casa cube。その大きな特長を生かせば、インテリアはもっと楽しくなる。壁一面を本棚にしたり、自転車を飾ってみたり、アートをディスプレイしてみたりと、実際に casa cube にお住まいの多くの方が、壁面を楽しみながら有効活用されている。



写真左上は収納力抜群の「シューズクローゼット」。右上は高さ約43cm、幅約3m50cmの「TVボード」。左下はフラップタイプのウォール収納。右下は小型のウォール収納。

美しく暮らすための工夫がいっぱい

収納もきちんとデザイン

casa cube は室内の収納のデザインにもとことんこだわっている。

たとえば、シューズクローゼットもそのひとつ。シンプルなデザインで玄関を美しく演出してくれる。表面はシートを貼って加工しているため、撥水性が高く、掃除がしやすいのも大きな特長。

棚板の高さが調節できるので、ブーツなどの背の高い靴も楽に収納することができるし、ドアの内側には傘やスリッパが収納できるスペースも確保されている。

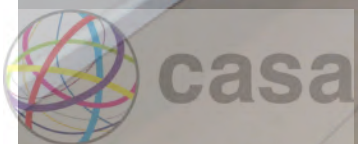
そのほか幅3m50cmの横長TVボードも秀逸だ。高さを抑えたことで圧迫感がなく、それでいて収納力はたっぷり確保されている。コード類が多いAV機器もすっきりと設置でき、リモコンなどの小物類も十分に収まる設計。

また、限られたスペースを有効活用するため、多彩な小型収納も用意されている。

その用途は、書斎に設置して小さな本棚として活用したり、トイレの背面に設置しておしゃれな小物入れとして活用したりと、じつにさまざま。ベッドのヘッドボードに設置して文庫本やめがねを入れ、収納下に間接照明を付けて就寝前の読書用の空間を演出することもできる。

さらにはフラップタイプのウォール収納もとても重宝する収納だ。小さい空間だけど小物を飾って演出したい、でも人目に触れさせたくないものも同じスペースに置きたいなどなど、そんな空間にマッチするのがこのフラップタイプのウォール収納。たとえば玄関ホールにひとつこれがあるだけで効率よくスペースを使える。

casa cube のインテリアには美しく暮らすための工夫がそこかしこにあるのだ。



DESIGN 3

美の真髄は窓にあり

casa cube を初めて見た人は「窓はどこ？」と驚く。
もちろん casa cube にはちゃんと窓がある。
そして家の中に足を踏み入ると「こんなに明るいの！」とまた驚くのだ。







天窓からもたらされる光は、家全体を明るく照らす。このスリット窓のメリットは通気性だけではない。時間帯や立地条件によってはそのスリムで長い窓から、同じ脚の長い、美しい光が室内に届く。

空から降り注ぐ やわらかな光が 家全体を明るくする



約3倍の採光を確保

窓に求められる条件は、風を通すこと、光を採り入れること。

casa cubeの家づくりでは、この二つの役割を分けることでもっと効率的になるのではないかと考えた。

風を通す窓は風を通すことに徹する。光を採り入れる窓は光を通すことに徹する。風は壁のスリット窓から通し、光は天窓から採り入れるという家づくりにしたのが casa cube だ。

天窓があれば、家の壁面に大きな窓をつくらずとも、光は十分に入ってくる。casa cubeの天窓からは、同じガラス面積を持つ壁面の窓と比較すると、約3倍の採光が確保できる。

常に上から光を採る天窓は、家が東西南北のどの方向を向いているかを気にしなくていいのも利点の一つだ。

天窓に使用している遮熱・断熱ガラスは太陽熱をしっかりブロック。日射熱を遮り(71%カット)、紫外線(UV)も96%カットしてくれる。

暑い夏でも寒い冬でも快適に、質の高い光を採り入れることができるのだ。



casa cube の光は こんなにも美しい

天窗から降り注ぐ光は、室内空間を心地よく照らしてくれる。家にいながらにしていつでも「スカイビュー」が楽しめるというのも天窗ならではの。またスリット窓から差し込む光は、空間のちょっとしたアクセントにもなる。

スリット窓の役割

風を通すことの役割は、壁に設けた縦長のスリット窓が請け負う。

1階と2階の窓をつなぐ縦に細長く伸びる板金は、デザイン性が高く、casa cube の大きな特長の一つとなっている。また、縦に細長く伸びる板金は、外壁の汚れの原因となる雨だれも目立たなくさせるという効果もある。

スリット窓の最大開口寸法は11.3cm(※)。90度まで開けることができるので、引違い窓では入ってこない風をガラスがキャッチして風を室内に十分に通してくれる。内側には網戸を取り付けているため、虫や動物が入る心配もない。

ガラスは紫外線をカットする特殊加工を施しており、外からは反射して見えにくくなっているため、プライバシーも守ってくれる。

大きな窓をつくらずとも、光も風も十分に取り込むことができるのが casa cube の「窓」なのだ。



casa

※防火窓の場合は幅が異なります。

天窗の種類



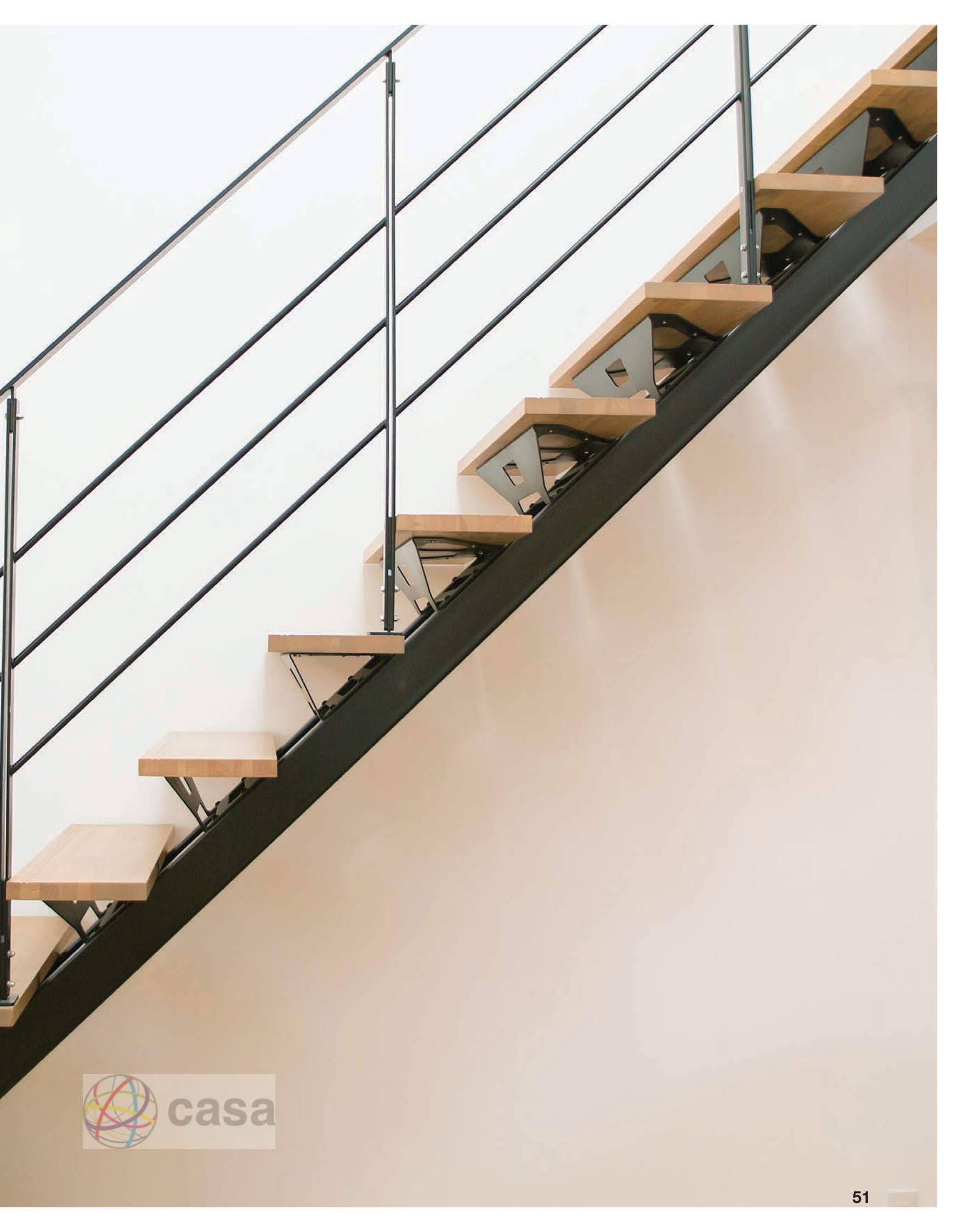
天窗は標準タイプと、電動で開閉するタイプ（オプション）の2つが用意されている。ともに強化ガラスなので、飛来物があっても安心・安全で、かつ防犯性にも優れている。

DESIGN 4

階段も建具も美しい家

階段のデザインもおろそかにしない。
室内のドア一枚だって手を抜かない。
使い勝手と美しさを兼ね備えたデザインが
casa cube の家づくりだ。





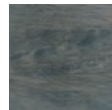


木製階段 (オプション)

ササラ桁



ホワイト



ブラック

踏み板 (蹴込み板)



ホワイト



ナチュラル



ウォールナット



アンティーク
ブラウン



グラファイト

スチールスケルトン階段

スチール



ホワイト



ブラック

踏み板 (蹴込み板)



ホワイト
(木目なし)



ホワイト



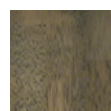
ナチュラル



ウォールナット



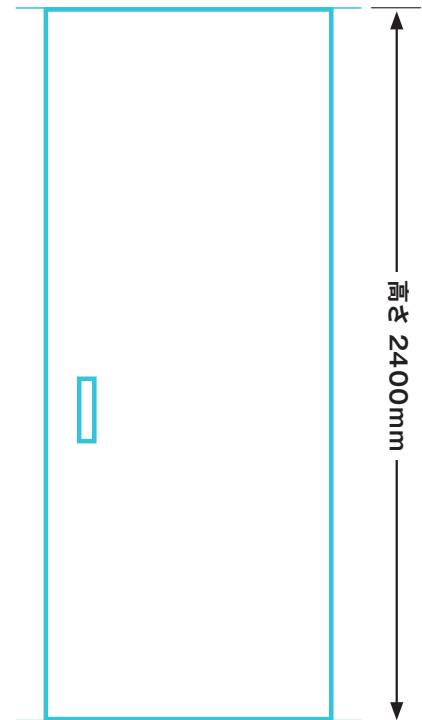
アンティーク
ブラウン



グラファイト

細部の形状にこだわり
シンプルだけれど
存在感はちゃんとある





オリジナルデザインの建具

ドア、収納扉は天井までのラインが揃うように設計されている。扉を閉めたときは独特の存在感があり、開けたときには開放感あふれるデザインだ。

デザインされた階段

デザインの優れた階段は、これまたデザインの優れた家具と同じように、空間をスタイリッシュに演出してくれる。上下の空間をつなぎ、常に視界に入る構造物だからこそ、家全体のデザインとの統一感も重要。

casa cube には2種類の階段が用意されている。

まず「スチールスケルトン階段」だが、存在感はあるものの主張はしない、というこれまででありそうでなかったデザインが特徴。

階段を支える部材を控えめに配置し、踏み板にクローズアップさせた形状は、上り下りの機能を存分に満たしながらも、空間を邪魔しない軽やかな存在となっている。

どのような空間にも合わせることができるため、場所やインテリアを選ばない汎用性も魅力だ。

もうひとつの「木製階段」は、踏み板と蹴込み板を連続させ、1階と2階をシームレスにつなげるイメージでデザインされている。

木材の持つ質感を大切に考え、踏み板・蹴込み板・ササラ桁・手摺カバーなど、肌に触れる部分は木のぬくもりを感じられる仕様になっているのも特徴の一つ。

いずれの階段も、使われる素材やサイズ、手摺りの大きさなど、生活動線としての機能面から生み出されたものだ。

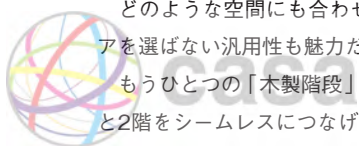
小さなお子さんがある方のために、オプションで転落防止用ネットも用意されている。

空間の広がりを感じさせる建具

建具一つで、部屋の印象はがらりと変わる。casa cube の建具は天井の高さまでであるオリジナルのデザイン。縦の広がりを持たせることで圧迫感を取り除き、ゆとりを演出している。

建具が縦に長いデザインの場合、素材が反ることもあるが、casa cube の建具では反り防止シートを使っている。

また、建具の開閉試験は約15万回行い、その試験に合格したものを製品化している。



DESIGN 5

使いやすいと評判のキッチン

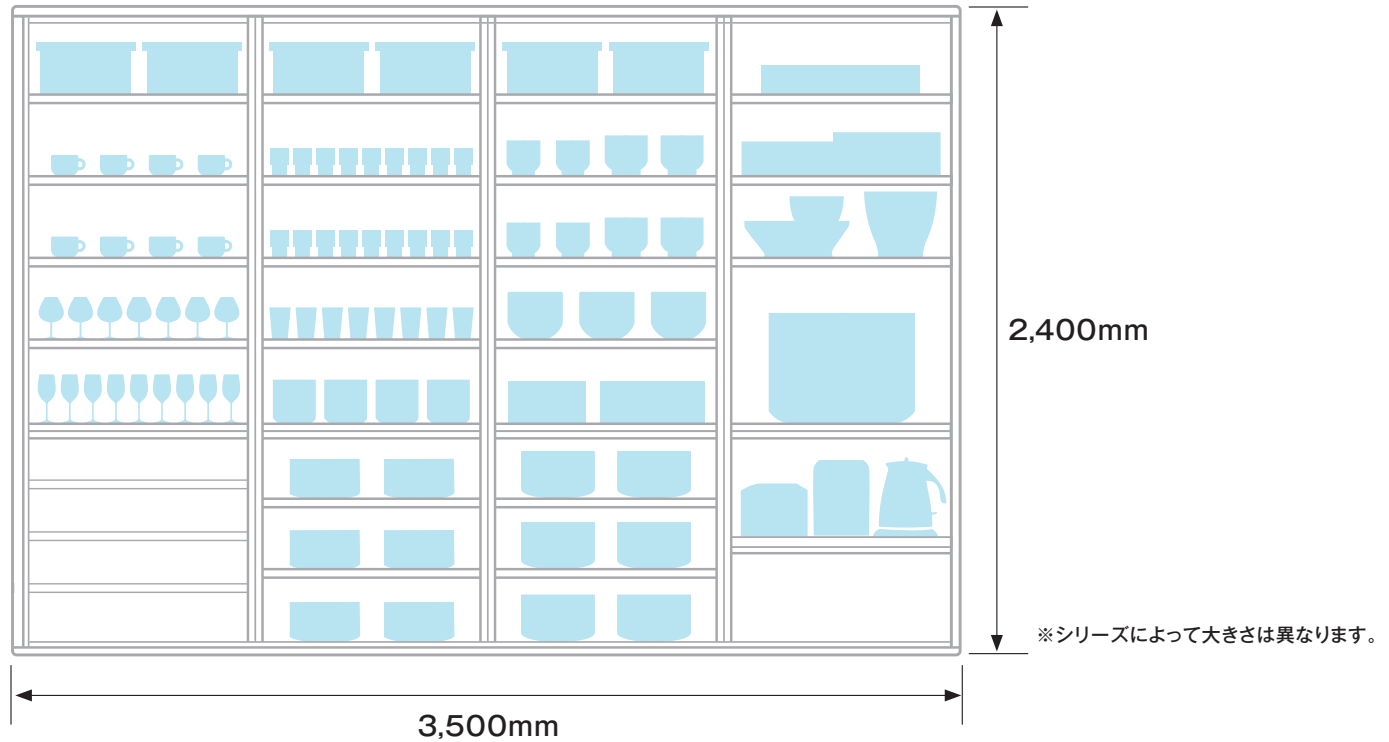
美しいデザイン性と使いやすい機能性を両立した casa cube のキッチン。
目を引くのは、食器やキッチン家電からゴミ箱にいたるまで
一切合切を収納してくれる大容量のキッチンバック収納だ。





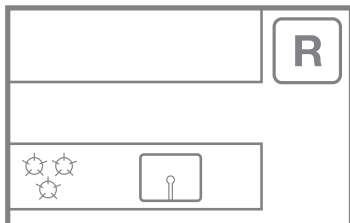


大容量のキッチンバック収納

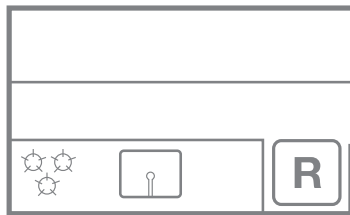


casa cube のおもなキッチンスタイル

対面型



独立型



使い勝手を第一に

家族の食事を毎日つくること。それは、「おいしい」といわれる喜びがある反面、たいへんな作業でもある。そうした日々の家事を行う空間を、使いやすく、そして楽しく過ごせるように設計されたのが casa cube のキッチンだ。

casa cube のキッチンのスタイルは大きく2つ。対面型と独立型。

対面型はダイニングに向かってシンクやコンロを設置しているタイプのこと。キッチンに立つ人が料理をしたり、洗いものをしたりしながらでも、家族とコミュニケーションをとれるレイアウトだ。小さな子どもがいる家庭では、キッチンにいながらにして子どもの様子を見守ることができる。

独立型はダイニングやリビングといった空間からキッチンが独立しているタイプのこと。キッチンとそれ以外とで空間が分けられているので、水廻りをあまり見せたくないという人におすすめのレイアウトだ。

casa cube では使い勝手を第一に考えて、油などの汚れが簡単に拭き取れるパネル、人造大理石のカウンターやシンクと天板に継ぎ目がないシームレス構造を採用するなど、お手入れがスムーズに行える仕様となっている。

そしてまた、レンジフードにもこだわりがある。日本のメーカーがシステムキッチンとしてパッケージ化しているレンジフードは、決して意匠的に優れているとはいえない。そこでより高いデザイン性を求め、イタリアでデザインされたレンジフードを採用。もちろん性能面でも申し分ないレンジフードだ。

キッチンの壁や床も、リビングやダイニングと基本同じ素材で、やはり白にこだわり、明るいキッチンに仕上がっている。

使う人のタイプに
合わせて考えられた
キッチン空間





写真上はキッチンバック収納。写真下はシンク下にも収納が。写真一番下は使用されているパネルの一例。掃除のしやすさがポイント！ 右頁の写真は対面型キッチンの一例。



デザイン性と 機能性を兼ね備えた 大容量収納

たっぷり収納、見た目もすっきり

キッチンに標準装備のキッチンバック収納は、壁一面を使った大容量の収納棚。食器、鍋、電子レンジ、コーヒーマーカーなどはもちろん、レシピ本やインテリア小物までたっぷり収納でき、見た目もすっきり。

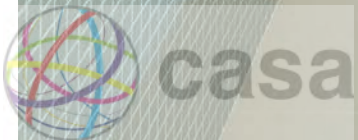
振り返ったときに何がどこにあるかがひと目でわかるよう設計されているので、料理の効率も、楽しさもアップする。

キッチンバック収納の建具（引き戸）は、全体の半分に当たる2枚だけ設置されている。その理由は、使用頻度の高いものについては開け閉めせずに使えるようにという考えから。

表に出したくないものについては、建具のついたスペースに隠し、逆にカラフルでお洒落な食器や家電製品などはインテリアとして見せるなど、使い分けができる。

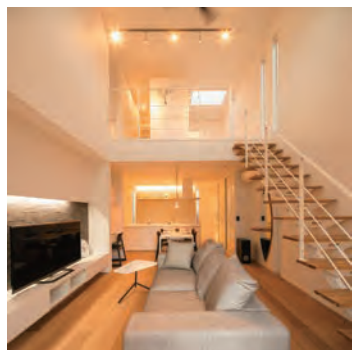
建具のついた収納の下の部分には、ゴミ箱を収納できるスペースも用意されている。

料理好きという人が使えば、調理がとてはかどるキッチン。料理は手早く済ませたいという人には効率のいい家事をサポートしてくれるキッチン。いずれにせよ実際に暮らしている方たちからは「使い勝手がいい！」とすこぶる評判の高いキッチンなのだ。



美しいあかりを 演出する照明

[照明]



設置される照明は、照明デザイナーが照明計画を行ったもの。計算された照明のあかりが室内空間に美しい陰影をもたらす。

外観を美しく彩る 重厚感のあるドア

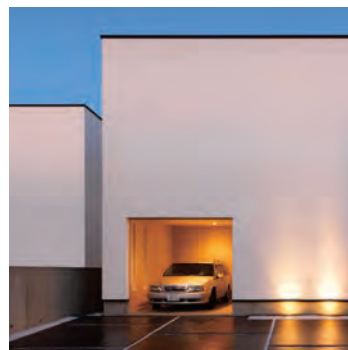
[玄関ドア]



シンプルな外観との調和を図るため、鍵穴のない電気錠付ドアを採用。気密性、断熱性にも優れた機能的な玄関ドアでもある。

車好きをも 虜にするデザイン

[インナーガレージ]



大切な車をあらゆる外的要因による傷みから守るガレージ。愛車をリビングから眺めることもできる、車好きにはたまらない空間。

地球にも環境にも やさしい設備を

[トイレ]

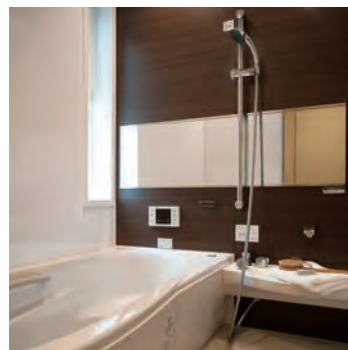


くつろげて居心地のいい空間を実現するためにハイオリティなトイレを装備。従来型と較べて約60%の節水が可能。

こだわり抜いた デザインは家の いたるところに

ホテルのような 快適さを実現

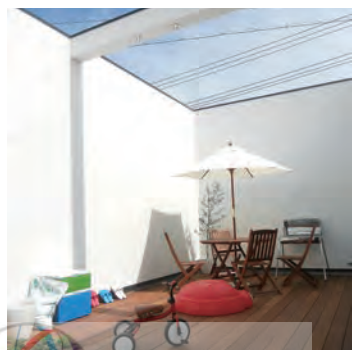
[バスルーム]



水はけのよい高排水フロアやユニバーサルデザインに対応した浴室グリップなど、誰もが心おきなく安らげる空間に。

プライベートが 守られた屋外空間

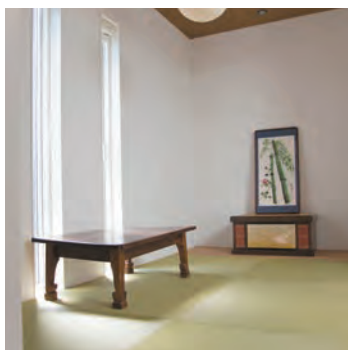
[バルコニー]



外でありながら、外界からの視線が適度に遮られている“プライベートバルコニー”。遊びから家事まで多目的に使えるスペース。

何かと重宝する 日本の伝統的な空間

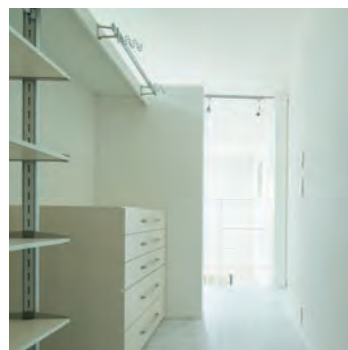
[和室]



両親、親戚、友達など、来客用の和室があると何かと便利だ。もちろん家族での団楽やちょっとした昼寝なんてのもあり。

衣類収納で 絶大なる威力を発揮

[ウォークインクローゼット]



憧れのウォークインクローゼットも casa cube ならお手のもの。最大で1部屋をまるまるクローゼットにすることも可能だ。

※仕様は予告なく変更になる場合があります。

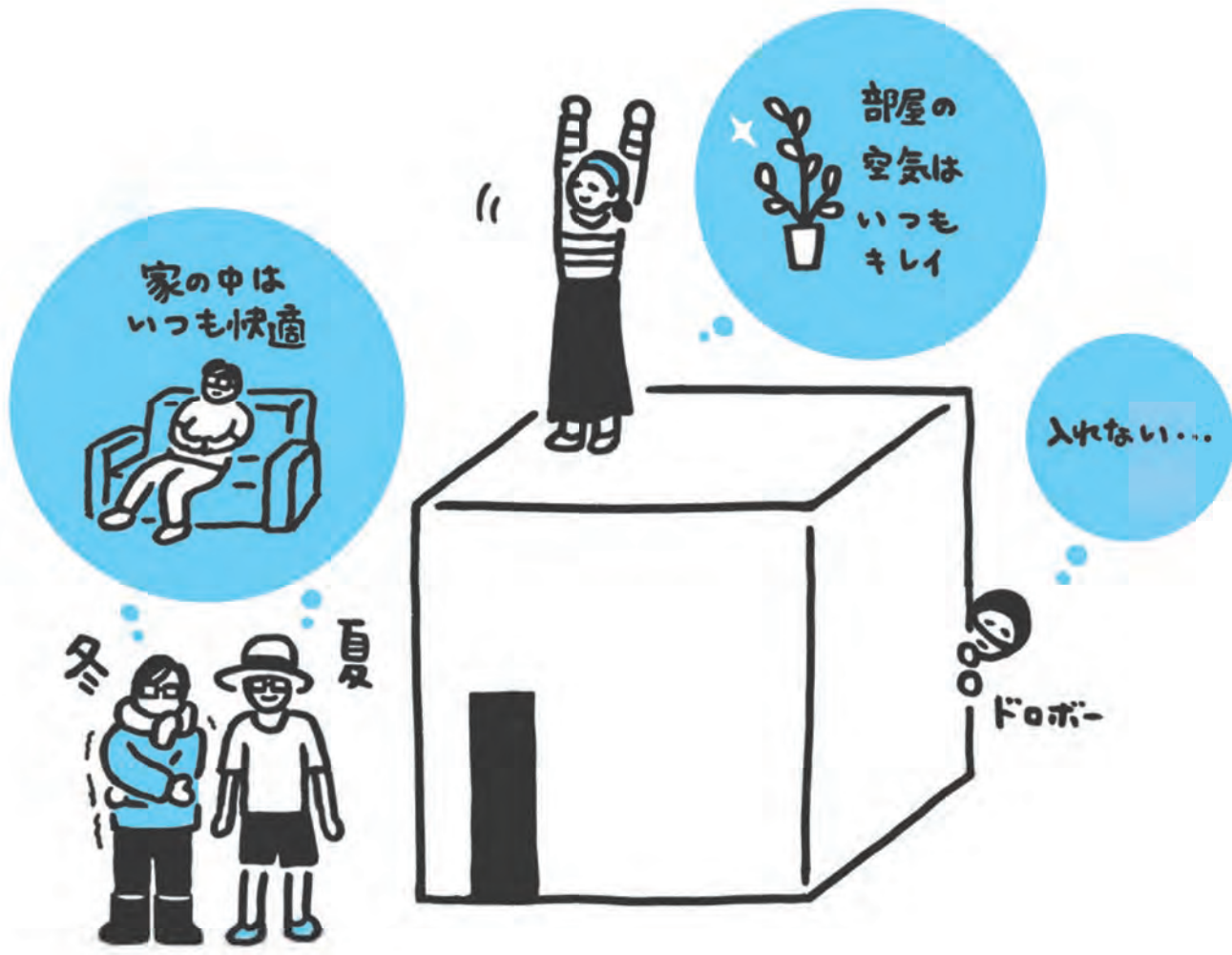


「快適&暮らしやすい!」 家づくり

FUNCTION

「casa cube」の魅力は、高いデザイン性だけにとどまらない。
常に最新の技術と仕様を取り入れ、進化し続けている「casa cube」。
優れた機能性と高品質な仕様、そして防犯性の高さで
住む人の快適さと暮らしやすさを支えているのだ。





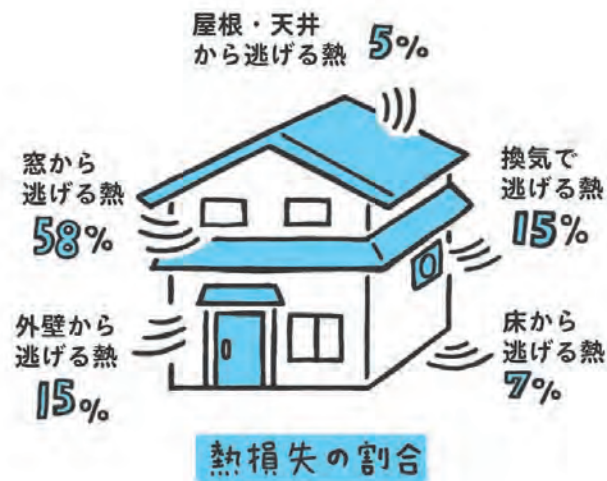
FUNCTION 1



夏は涼しく冬はあたたかい家

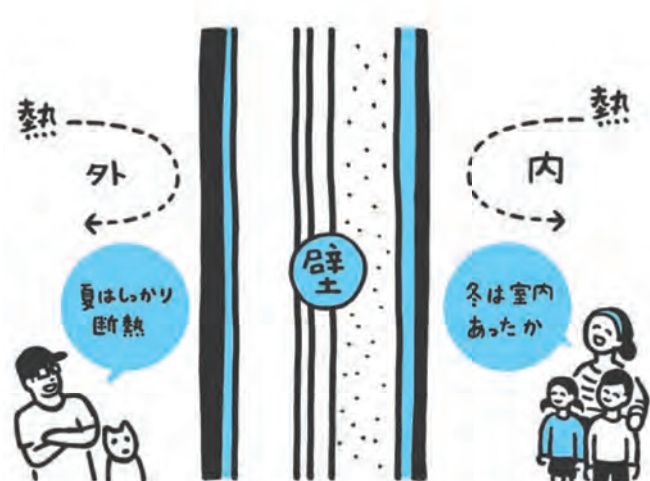
常に快適な室内空間を保つことを目指し、
casa cube では最適な断熱材を選び、
そしてその素材を生かしきる家づくりがなされている。





住宅の熱損失

この図は一般的な住宅でどの部分から熱が逃げていくかの割合を示したものです。窓から逃げる熱が58%とダントツで高く、その次が外壁から逃げる熱と、換気で逃げる熱で15%となっている。



理想的な断熱性能

夏は涼しく、冬はあたたかいというのが理想の室内温度。この理想を実現するうえで欠かせないのが断熱。室外の熱（冷気）は遮断し、室内の熱（冷気）は逃さないことが重要。

「快適さ」は優れた断熱材と施工から生まれる

冷暖房機器に過度に頼らず暮らす

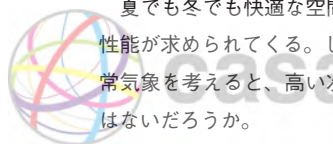
建物が外の温度に左右され、冷たくなったり、熱くなったりしているようでは、快適な室内空間は得られない。

もちろんエアコンのボタンひとつで解決はするものの、暖房にしろ冷房にしろ、エアコンの強風が「心地いい」「気持ちいい」なんて人はあまりいないだろう。

光熱費だってばかにならないし、できることなら冷暖房機器に過度に頼らず暮らしていけることがベターだ。

暑すぎても、寒すぎても、人は不快になる。つまりは適温の維持が住みやすい家の条件の一つとなる。

夏でも冬でも快適な空間を得るには、家に「断熱」「気密」という性能が求められる。しかも近年の「酷暑」や「厳寒」といった異常気象を考えると、高い次元での「断熱」「気密」性能が必須なのではないだろうか。



本来の断熱性能を発揮するために

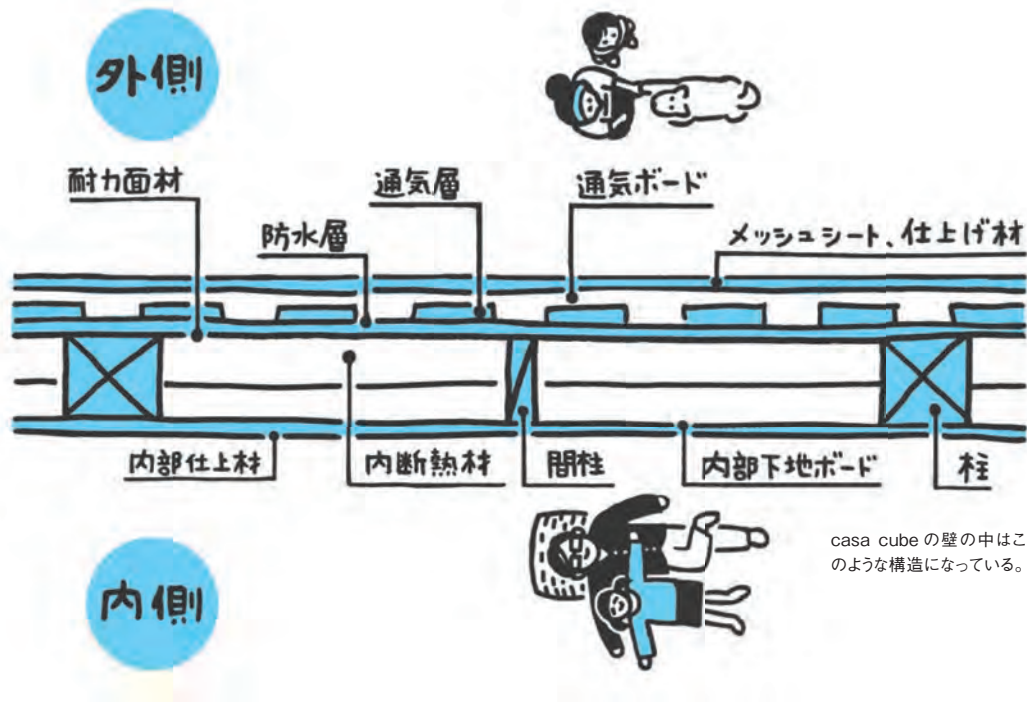
「高断熱住宅」だからといって断熱材の性能部分だけにこだわってでは、快適さは得られない。

隙間なく施工して高い気密性を確保していなければ、本来の断熱性能は発揮されないからだ。

そこで casa cube では液体を発泡させて、手の入らない狭い隙間にも隅々まで入り込み、躯体と接着することのできる「水発泡の硬質ウレタンフォーム」を採用している。

建築現場にて吹き付けされたウレタンが形状に合わせて発泡、硬化し、自己接着するので、気密性が高く、経年による断熱材の脱落、剥がれもおこりにくいのが特徴だ。

このウレタンは、国内の自社工場自社生産・自社開発をし、吸放湿量の試験も実施している業界唯一の硬質ポリウレタンフォームのシステム原料メーカー「日本パフテム」の商品「MOCO フォーム」。



casa cube で採用されているウレタンは安心の国内メーカーのもの。

casa cube に
お住まいの方の実感！

この家のすべてが
気に入っています。
毎日が本当に快適です。

そもそもが熱を逃がしにくい家

もう少し casa cube の壁の構造を見ていくと（上図参照）、採用されている外側の通気ボードには、熱がこもりやすく、熱気や冷気を建物に伝えにくいという特性がある。こうしたボード一つにも快適に暮らすための知恵が注ぎ込まれ、冷暖房による光熱費を大幅に削減する工夫がなされているのだ。

最後に、実は窓が少ないという casa cube そのものが持つ特徴が、室内の快適性に大きく貢献している。住宅から熱が逃げる「熱損失」の割合を示した数字を見ていくと、そのトップが窓なのだ。「窓」から逃げる熱の割合が58%も占めている。casa cube はそもそもが熱を逃がしにくい家ともいえるのだ。





FUNCTION 2

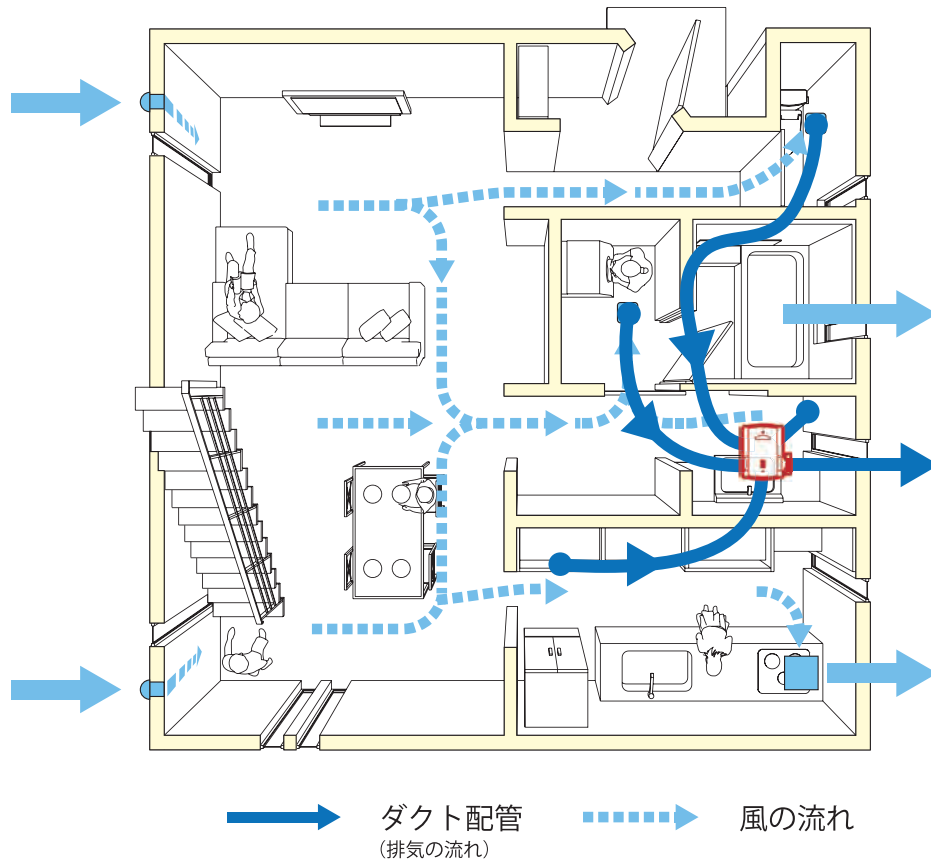


室内の空気はいつも新鮮

家族の健康を気遣うなら、室内の空気は気にしておきたいところ。
室内の空気の入れ替えを自動で行う
「セントラル換気システム」を採用する casa cube なら安心だ。



[24時間換気システムのイメージ図]



空気の流れは計画的に

健康的な空気環境を維持

2003年、建築基準法の改正により、ほぼすべての建築物に24時間換気設備の設置が義務付けられた。24時間換気とは屋内の空気を常時入れ替える設備のこと。

スムーズな空気の入替えで、シックハウス症候群の原因である揮発性の化学物質や、CO₂、においを排出し、常に室内の空気を清浄に保つと同時に、結露などを抑え、健康的な空気環境を維持することにつながる。

24時間換気設備の設置が義務化されたとはいえ、計画や運用がうまくいかなければ、空気はよどんでしまう場合もある。

そこで casa cube では24時間換気をよりグレードアップさせ、計画的な換気を行う「セントラル換気システム」を導入している。

新鮮な空気がゆるやかに広がる

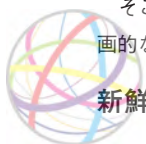
図は、casa cube のセントラル換気のイメージ。家全体を大きな空間としてとらえ、全体の空気の流れを計画している。

家全体で外壁4カ所に給気口を設け、そこから入った新鮮な空気は、リビングや各部室を通してゆっくりと広がる。計画的に配置された排気口のダクトは水廻りやトイレなどにもあり、湿気やにおいのこもった空気が、別の部屋に行かないように設計されている。

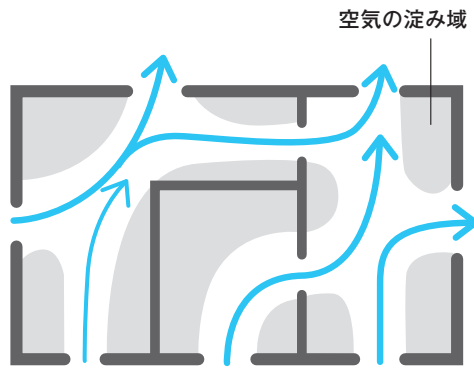
トイレや水廻りを通った空気は、ダクトを通してチャンバーと呼ばれる換気機器の整流箱に集められ、外に排出される。キッチンや浴室にも専用の換気扇をつけており、そこから換気を行うことができる。

セントラル方式は電気が必要な機器は1カ所で済み、節電効果が高い。また風などの影響も受けにくいので、静かで安定した計画換気が行える。

casa cube が採用する高性能フィルターは、永久帯電した特殊繊維が静電気力で、花粉やPM2.5等の汚れ微粒子を磁石のようにとらえて逃さない。

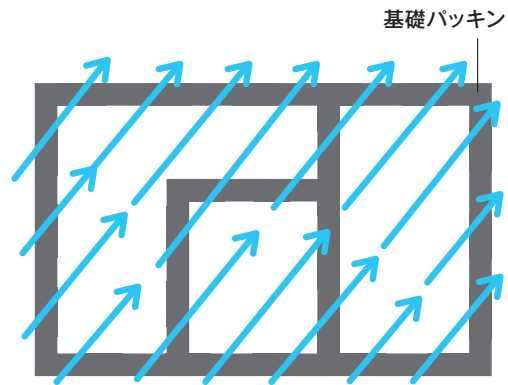


[従来の換気]

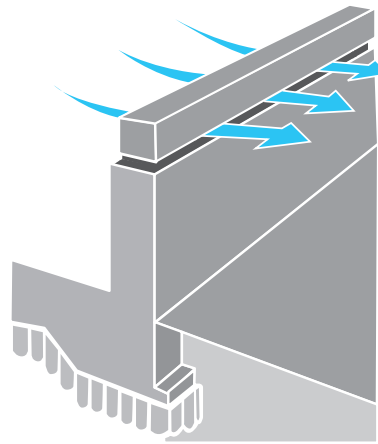


コーナー部分に湿気がこもりやすい

[casa cube の全周換気]



基礎パッキンでコーナー部分にも通気が行き渡り全周換気できる



さらに進化した高性能フィルターを採用し、ダクトを使って計画的に室内空気を排気しながらも、新鮮な外気を常に取り込む。

この高性能フィルターは、通常のフィルターと違い円柱状になっていることで、3次的に充填された繊維の目詰まりが起りづらく、今までの約4倍（自社比較）も長持ちする優れものだ。

床下の換気も大事

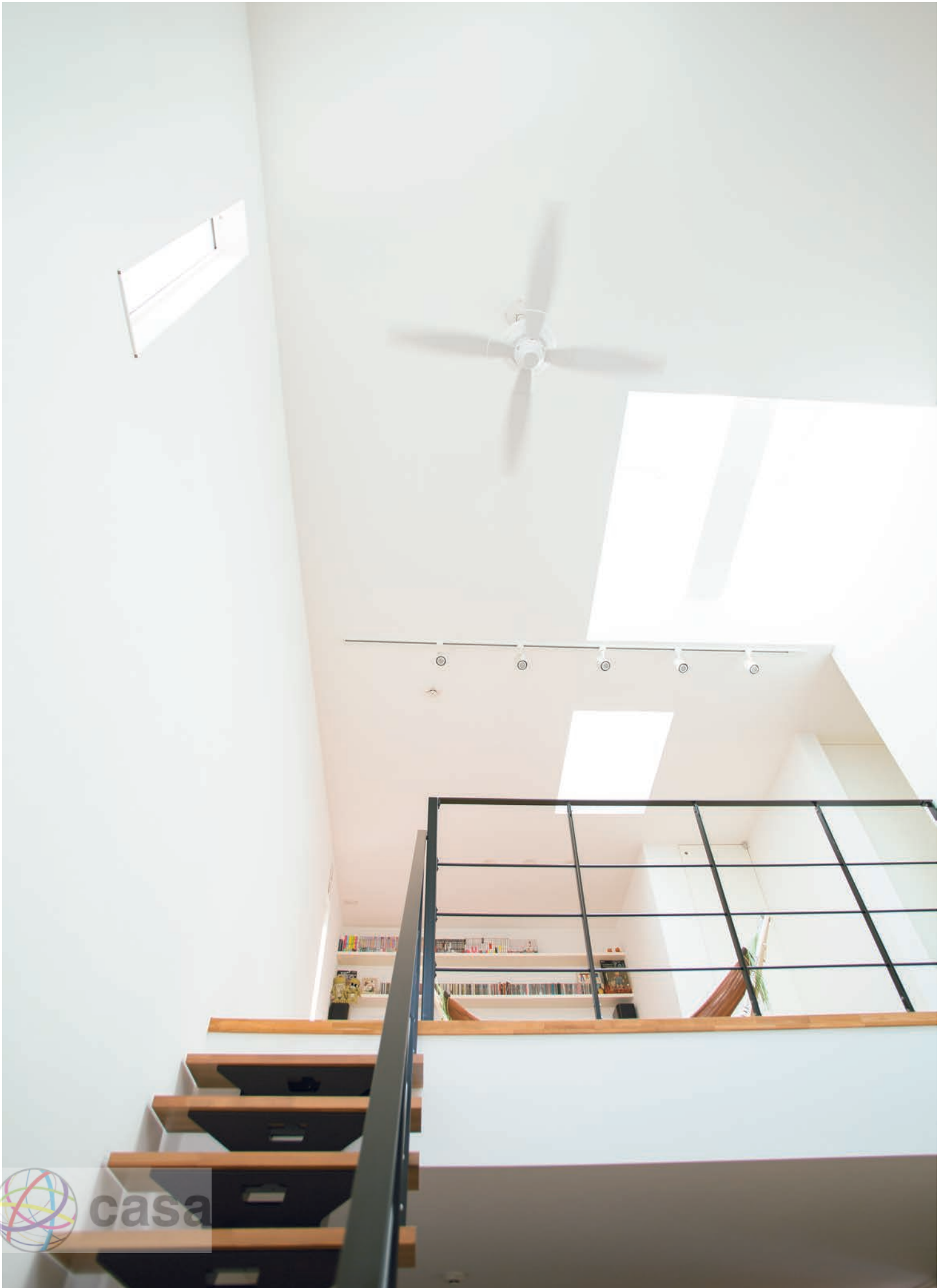
従来は、基礎のコンクリートに穴をあけることで、床下の換気を行ってきた。

しかしそれでは、風がまんべんなく行きわたらない。また基礎のひび割れの原因にもなり得る。

casa cube は、基礎と土台の間に通気ができる基礎パッキンをはさむことで、床下全体に通気を行きわたらせ、湿気を取り除き、腐朽菌やシロアリの発生を防ぎ、家の耐久性をより高めることができる。

casa cube にお住まいの方の実感！
防音性が高いうえに、
換気システムも
しっかりしていると思います。





FUNCTION 3



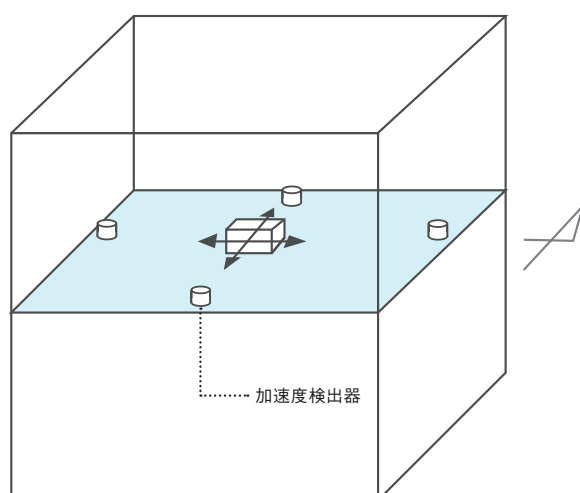
家族の安心・安全を 大切に考えた家

地震対策、火災や風雨への備え、防犯などなど、
家が担う役割はとても大きい。

casa cube の家づくりがどんな“役割”を果たしているのか見てみよう。



[耐震診断の計測]



耐震診断の専門業者に依頼して、casa cube 4×4の耐震性を調査。

調査方法

- ① 診断機器を建物2階に設置し、小さな揺れを起こす
- ② 2階床面での揺れを計測し、1階の各壁の変形量を計算式により算出
- ③ 建物が耐える最大震度を導き出し、安全性の高さを推測

[casa cubeの耐震性能]

	現況		
	建物の安全性	加速度	震度
南	安全性高	992.4 gal	7
	損傷の危険	1500 gal 以上	7
中央	安全性高	1085.7 gal	7
	損傷の危険	1500 gal 以上	7
北	安全性高	1500 gal 以上	7
	損傷の危険	1500 gal 以上	7
東	安全性高	1500 gal 以上	7
	損傷の危険	1500 gal 以上	7
西	安全性高	1376.7 gal 以上	7
	損傷の危険	1500 gal 以上	7

耐震診断の結果、casa cube は震度7以上の地震にも強いことが証明された。
※計測は2011年3月3日に行ったもの。

計測/ビィック株式会社

自然災害に負けない家

四角い家は強い

casa cube は見てのとおり、四角い面で構成された建物。四角い建物の特徴のひとつに、地震に強いことが挙げられる。柱はもとより壁でも支えているので、強い揺れにも耐えられるのだ。

基本的に家の構造の強さは、壁と柱に左右される。

窓は構造躯体になり得ず、壁に大きな窓を取り付けると、構造は当然弱くなる。そのため、窓の周囲の構造躯体を強くしなければならず、部屋に太い柱や間仕切り壁を設ける必要性がでてくる。

つまり、窓が多い分、構造が弱くなり、余分なコストがかかるのだ。

余分な窓を減らし、壁で構造を強くすれば、「太い柱」も「間仕切り壁」も必要ない。そんな構造の強い、シンプルなつくりの家が casa cube というわけだ。この発想は、多くの構造の専門家を驚かせた事実の一つでもある。



火災や風雨にも強い

casa cube の外壁は劣化しにくく、外側の耐力面材は火にも強い材質を使用している。メーカー独自で国土交通省の「防耐火構造の認定」を受けたオリジナルの外壁だ。「防耐火構造の認定」とは、実物大の模型をつくり、実際に火災を想定して荷重をかけながら、高温にさらすなどといった防耐火試験をクリアした外壁だけが認定されるというもの。

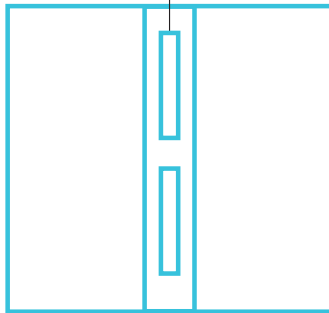
さらには、casa cube は大きな窓がなく、壁面も多いため、台風などの強風にも負けない。台風被害が多く、建築に条件が付される沖縄県でも建築可能だ。

防犯もプライバシーの確保も

空き巣は外から窓を通して家の中を覗き、人がいるかいないかなど



ガラス幅 150mm
有動開口幅 113mm



スリット窓は、すべり出し窓なのでどの方向からの風もスムーズに室内に取り込むことができる。また、サッシ枠は樹脂構造、ガラスは Low-E の複層ガラスを標準採用。嫌な結露も大幅に軽減してくれる。

casa cube に
お住まいの方の実感！
奥さんと子どもの
ふたりだけで過ごす時間も
casa cube だったら安心です。

を見極めて侵入する例が多いといわれている。窓の施錠を忘れてい
れば、一発でアウト。最近では、セキュリティシステムを取り入れて
防犯している家も多いようだが、月々の契約料は決して安くない。

しかもセキュリティ会社が駆けつけるのは、たいてい事が起こった
あと。セキュリティ会社の人たちは、職務上では空き巣を「捕ま
える」こともできない。そんな話を聞くと、家の防犯とはなんなのかを
考えざるを得なくなる。

casa cube の壁に取り付けられているのは、有動開口幅 11.3cm のス
リット窓。このサイズでは、どんなに細い人でも中に入ることは不可能だ。

また、玄関ドアの鍵にはピッキング対策用のダブルキーを採用して
いるので、玄関さえしっかり施錠していれば、窓を開けっ放しにして
外出しても安心とすらいえる。ちなみに、このスリット窓は日中であ
ればカーテンなしでも外側から見えにくい Low-E の複層ガラスを採
用している。



casa cube は、家族を犯罪から守り、プライバシーも守ってくれる
「隙のない家」でもあるのだ。





メンテナンス費用を 軽減できる家

雨だれが目立たない外壁

住宅のメンテナンスで一番お金がかかるのは、外壁といわれている。

外壁を修繕するには足場を掛けなければならず、1回に40万円から50万円の費用がかかるのが相場だ。

一般的に家の外壁でよく使われているのはサイディングと呼ばれる外壁材。このサイディングの場合、定期的にコーキング（隙間を目地材などで埋めること）の打ち替えをしなければならない。

一方、casa cubeの外壁は塗り壁だ。

つまり、定期的なコーキングの打ち替えをする必要がない。

もちろん塗り壁でも汚れたら塗り直しが必要

ではあるが、その汚れの原因は窓の際から流れる雨だれであることが多い。

casa cubeはスリット窓の周りを板金で加工しており、雨だれが目立ちにくいいため、塗り直しもほとんど必要ないというわけだ。

屋根も驚くほど長持ちの家

外壁の次に主要なメンテナンスといえば、屋根だろう。

casa cubeの屋根には、ガルバリウム鋼板という建材が採用されている。

軽くて強度的にも優れたこの鋼板は、メンテナンスフリーに近い素材で、葺き替えや塗り替えの必要がほとんどない。

さらには、雨などで磨耗することを考慮し、特殊な磨耗防止加工も施されている。

このように外壁にも屋根にもメンテナンスフリーに近い素材が採用されているのが、casa cubeという家なのだ。

床も長持ち！

室内に目を向けると、たとえば床材も、メンテナンスという負担を住む人にかけて済む工夫がなされている。床を張り替えるのはとてもたいへんな作業で（もちろん費用面でも）、できることなら床の張り替えを一生せずに過ごしたい。

casa cubeで採用されているフローリング材には、傷を防ぐ特殊なコーティングが施され、できるだけ長持ちするような仕様になっている。



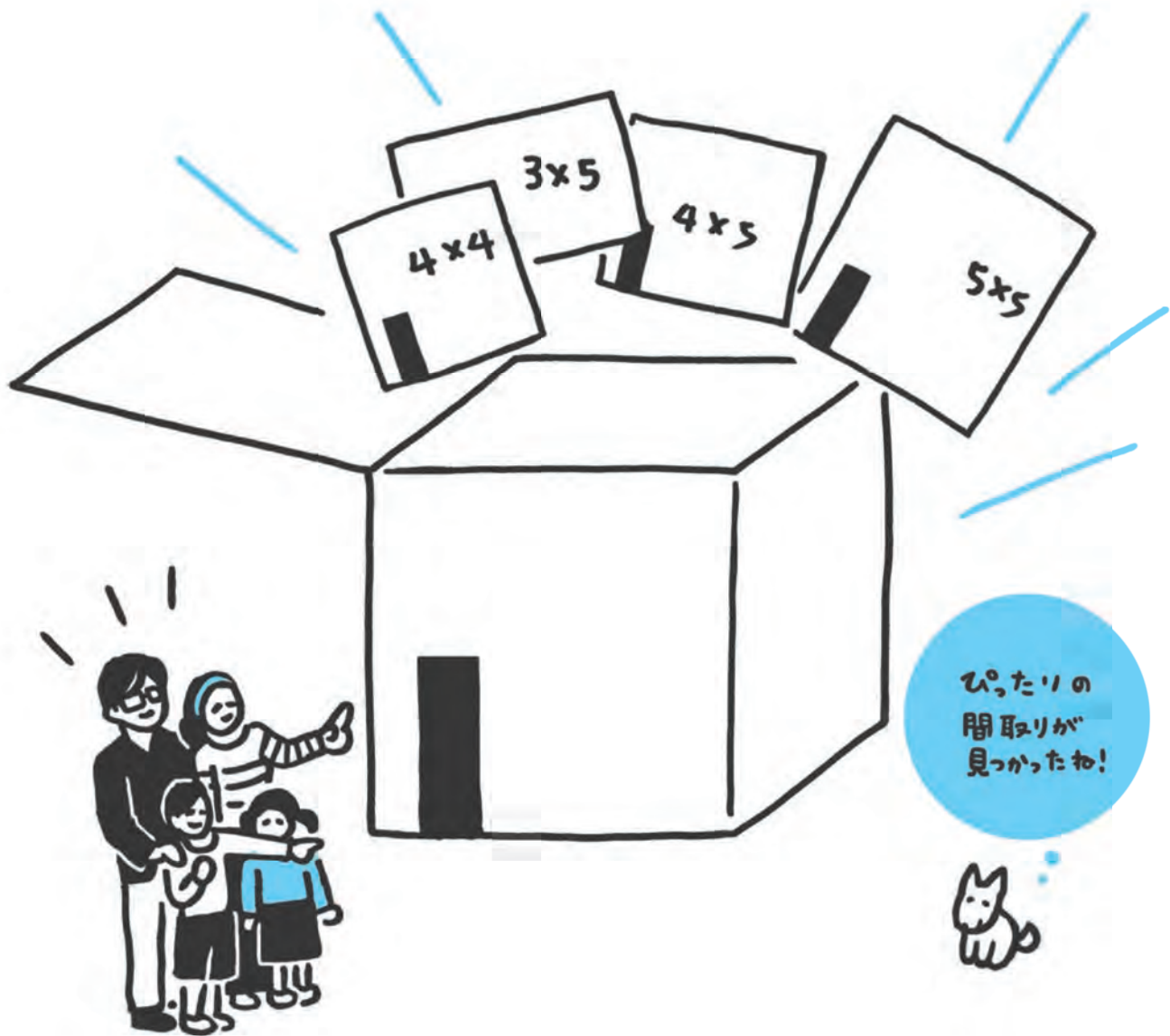


シンプルで美しく 暮らしやすい間取り

PLAN

ゼロから自分たちで考えるのではなく、家づくりのプロが「住みやすさ」「使いやすさ」を徹底して考え抜いたプランのなかから、自分たちの暮らしにぴったり合った間取りを選ぶだけ、というシンプルなスタイルは、間違いのない家づくりを約束してくれる。



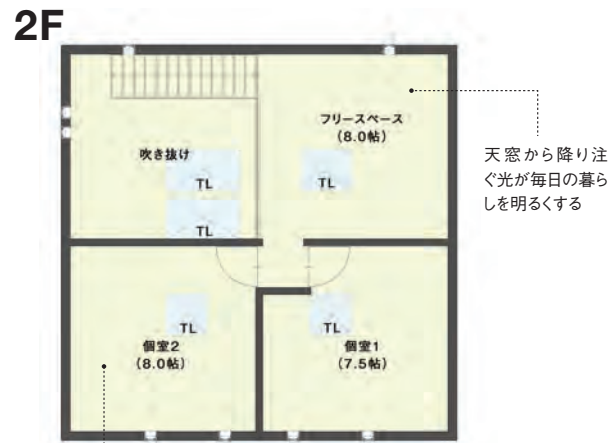
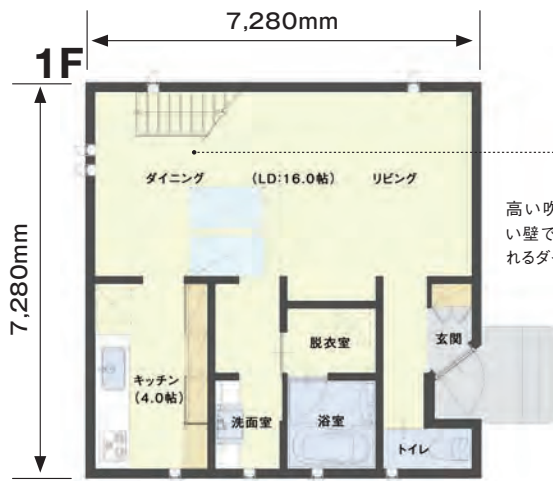


4×4

スタンダードなシンプルタイプ

効率のよい四間真四角が casa cube の基本形。生活感をなるべく表に出さないスタイリッシュな住まいを追求したタイプだ。1階は水廻りすべてを一方に寄せ、リビング・ダイニングから隠れるように設計している。2階もシンプルな設計で、将来的に家族構成が変わるケースを想定し、間取りに可変性を持たせている。

施工面積 105.98㎡ (32.05坪)

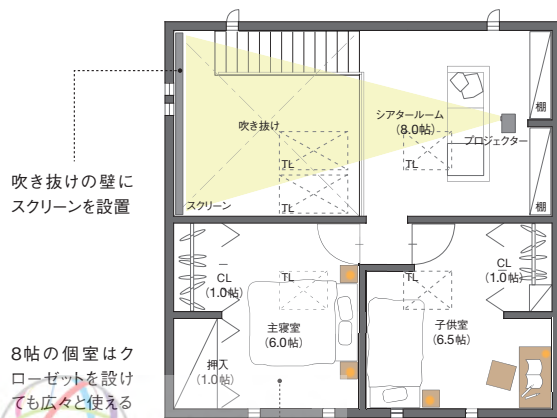


子どもの成長に合わせて自由にアレンジできる個室

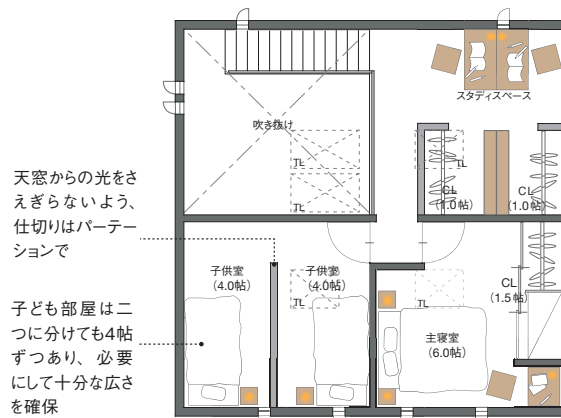
2階の暮らし方提案

フリースペースと吹き抜け部分を使って、大きなシアタールームに。1階と2階が趣味でつながる、遊び心のある提案。

夫婦と子ども2人の4人家族の場合。フリースペースを子どもたちのスタディスペース&収納として使う提案。



※本体+596,925円 (壁・建具・CL・押入・棚)



※本体+467,250円 (パーティション・壁・建具・CL)

待望のバルコニー付きプラン

casa cube に、たいへん要望の多かったバルコニーが付いたバージョン。基本形の4×4よりも吹き抜け部分は狭くなるものの、天窗とバルコニーから光が入るため、明るさは十分にある。2階はバルコニーに面していない個室とフリースペースに天窗が付いている。



施工面積 105.98m²(32.05坪)



天窗とバルコニーの両方から光が入るつくり

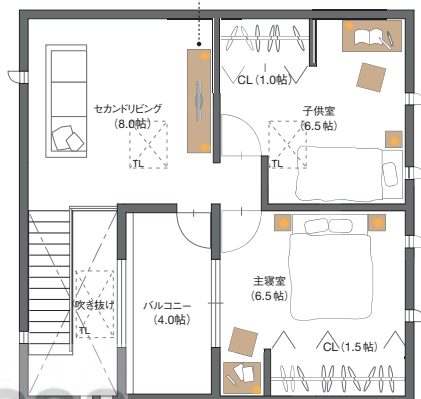


洗濯物を干しても外からは見えないインナーバルコニー

2階の暮らし方提案

2階のフリースペースをセカンドリビングにして、映画鑑賞をしたり、読書を楽しんだりするという提案。

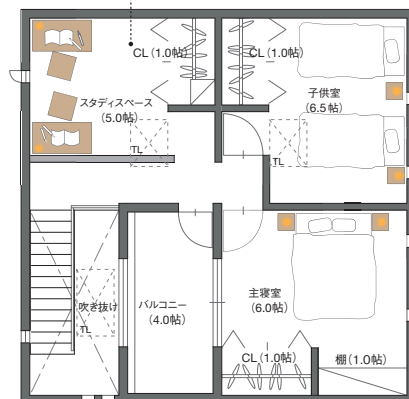
フリースペースに棚を置いて、本やグッズなどを飾っても OK



※本体+412,650円 (壁・建具・CL)

子どもが2人の場合。フリースペースを子どもたちのスタディスペースにする提案。

クローゼットを設置しても、5帖と6.5帖の広さを確保



※本体+649,950円 (パーテーション・壁・CL・棚)

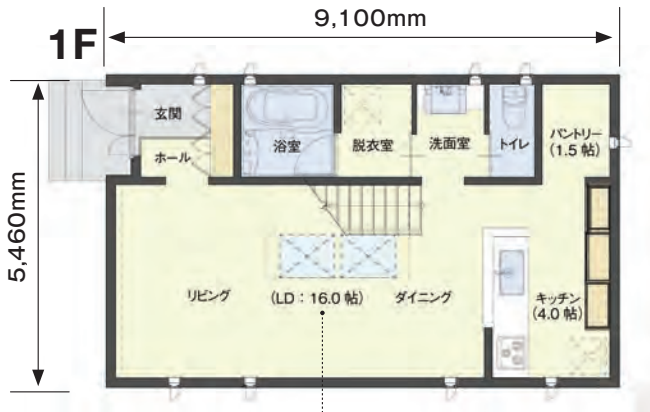


3×5

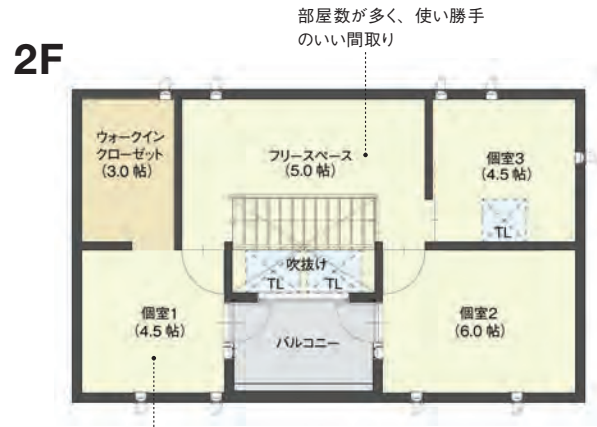
明るさも使い勝手も、さらに進化したプラン

階段と天窓を家の中心に持つことで、空間に広がりを感じさせるつくり。また真ん中から光が落ちてくることで、より多くの光を採り入れることができる。2階のバルコニーに設けた掃き出し窓からも心地よい光と風が入ってくる。

施工面積 99.36㎡ (30.06坪)



吹き抜けと天窓を家の中心に持つことで、いっそう明るい空間に

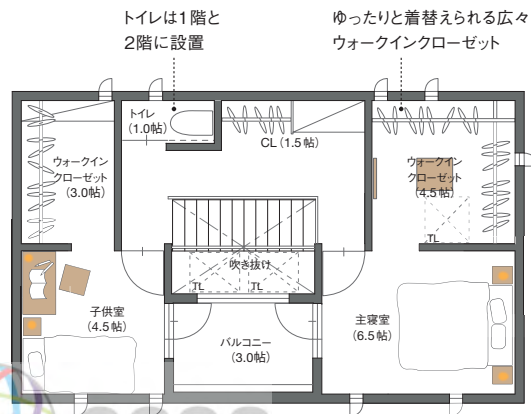


部屋数が多く、使い勝手のいい間取り

2階の各部屋には、バルコニーまたは天窓から光が入る

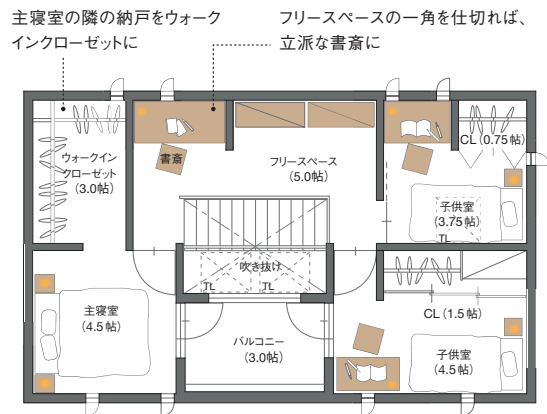
2階の暮らし方提案

主寝室と子ども部屋を独立させたパターンの提案。二つの部屋はバルコニーを挟んで両側にそれぞれ設置した。



※本体+738,150円 (トイレ・壁・建具・CL・ウォークインクローゼット)

主寝室と二つの子ども部屋を設け、フリースペースは、書斎や収納、趣味のスペースとして活用するプラン。



※本体+505,050円 (壁・建具・CL・ウォークインクローゼット)



収納スペースと対面キッチンが人気のプラン

この3×5のプランは、対面キッチンが大きな特徴のひとつ。より家事をしやすくするために、キッチンの隣にパントリーや家事室として使えるようなスペースを設けている。また、土地を探しやすくするために、間口を狭くして家の形を長方形に。2階には十分な広さの収納スペースがある。

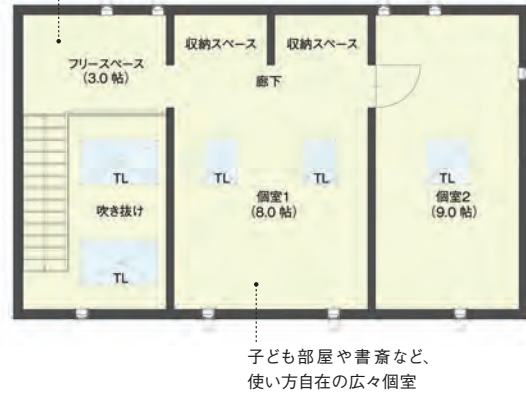
施工面積 99.36㎡ (30.06坪)



ちょっとした空間をスタイリッシュにアレンジできる

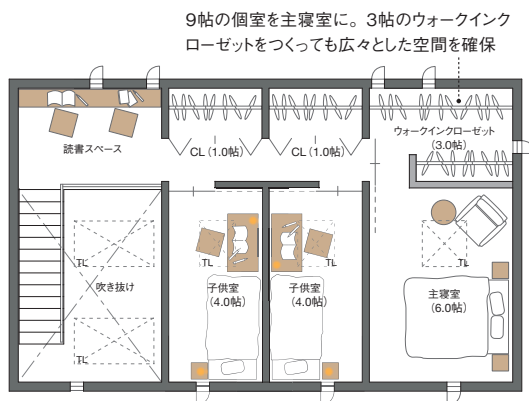


2F

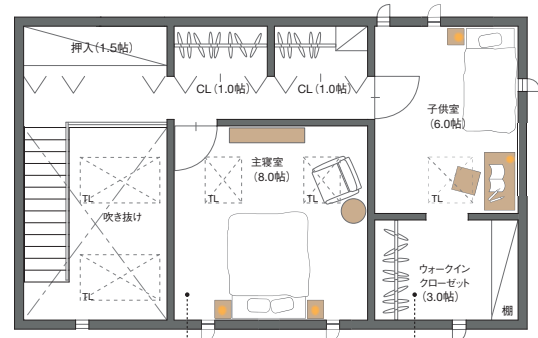


2階の暮らし方提案

フリースペースに読書スペースを設置。子ども部屋の外に子ども用の収納を設ける提案。



子どもが1人という家族なら、主寝室も子ども部屋もとても広く使える、収納を充実させたスタイルの提案。



※本体+657,000円 (パーティーション・壁・建具
・CL・ウォークインクローゼット)

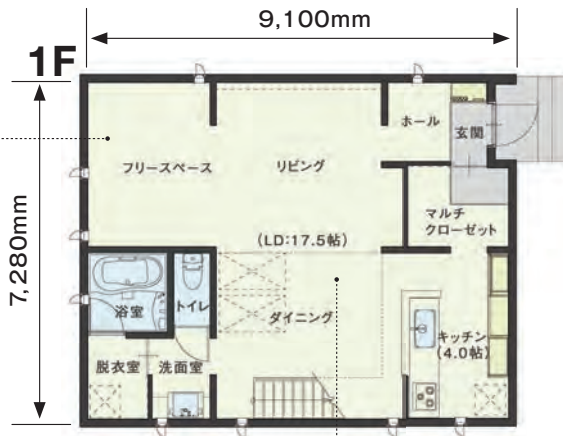
※本体+745,500円 (壁・建具・CL・押入・棚・ウォークインクローゼット)

4×5

リビング横に部屋を設けた広々タイプ

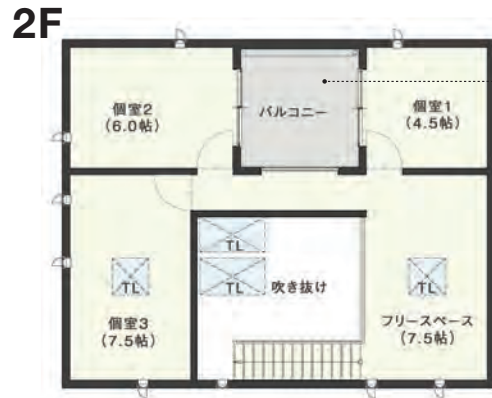
敷地面積を広く取り、1階のリビング横にフリースペースを設けたプラン。大きな吹き抜けはそのままだに、2階には4.5帖の広いバルコニーも付いている。玄関横のマルチクローゼットは土のついた野菜を置いたり、シューズクローゼットにしたりと便利。家族が多い家庭や、家具や洋服など、物をたくさん持っているという方にも最適な間取り。

施工面積 132.48㎡ (40.07坪)



家族構成の変化に対応できるフリースペース。客室にも最適

大きな吹き抜けのあるダイニングは8人掛けのテーブルでも楽々

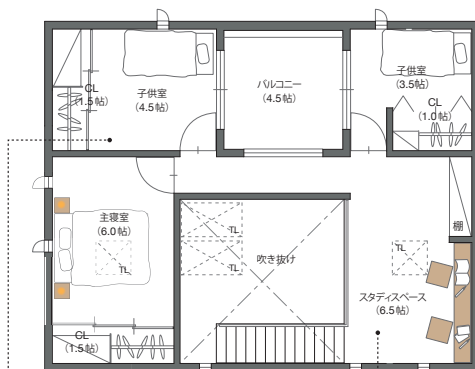
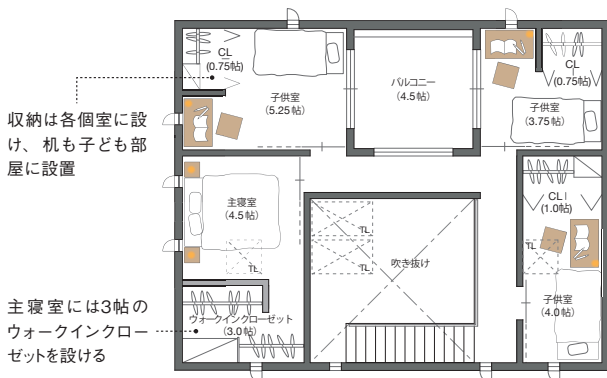


プライバシーを守るインナーバルコニー

2階の暮らし方提案

個室を4つ設けるプランの提案。子どもが3人いる場合は、フリースペースに子ども部屋をつくってみては。

2つの子ども部屋と主寝室をしっかり確保し、フリースペースに子どもたちの勉強机を並べ、さらに収納も設けるプランの提案。



受験シーズンになったら、子ども部屋に机を移すという手も

7.5帖のフリースペースをスタディスペースとして



※本体+826,350円 (パーテーション・壁・建具・CL・ウォークインクローゼット)

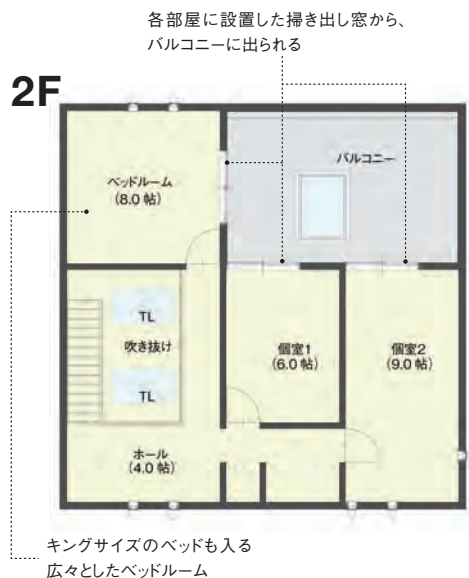
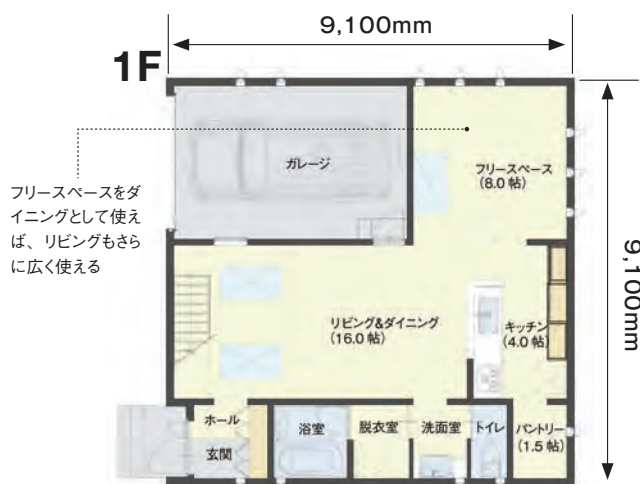
※本体+716,625円 (壁・建具・CL・棚)

5×5

部屋数も多く、空間も広々と使えるタイプ

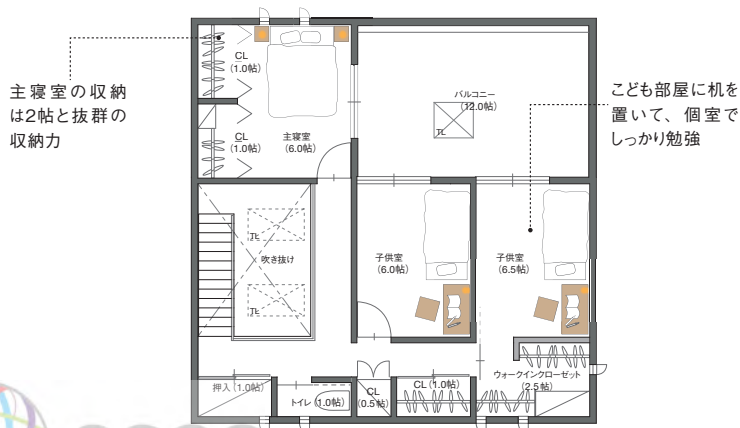
3×5のプランにガレージとバルコニーが付いたプラン。間口も床面積も広くなり、1階にも2階にも部屋が追加される。1階のキッチンの隣はダイニングとしても、個室としても使える。2階の各部屋も広々。ベッドルームはキングサイズのベッドが置ける広さを確保。

施工面積 165.62㎡(50.10坪)



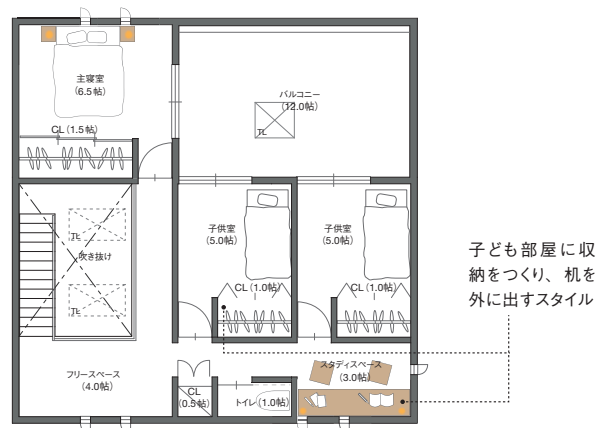
2階の暮らし方提案

2階にトイレと押入を設ける提案。夫婦、子どもたちとともに、収納スペースもしっかり確保。



※本体+1,119,300円(トイレ・パーテーション・壁・建具・CL・押入・ウォークインクローゼット)

あえてフリースペースをそのまま残し、2階全体に余裕を持たせる提案。主寝室には大きいサイズのベッドが置ける。



※本体+974,400円(トイレ・壁・建具・CL)



casa

基本のプラン以外にもさまざまなプランを用意!

4×6 車好きにうれしいガレージ付きタイプ

4×4の基本的な間取りに、ガレージが付いたタイプ。通用口もつくり、車から降りても雨でも濡れずに家の中に入れる。ガレージの2階部分に広々としたバルコニーを設けた。1階のダイニングには、バルコニーの窓から吹き抜け越しに、光が降り注ぐ。

施工面積 158.98㎡(48.09坪)



2.5×5 最小間口がテーマのコンパクトタイプ

casa cube のなかで、狭小地に最適なタイプがこの2.5×5。最小間口をテーマに設計されたコンパクトサイズで、必要な敷地面積は住居地域で建てた場合20.9坪と、土地が狭くてもOK。もちろん光は天窓から十分降り注ぐ。2階のフリースペースはセカンドリビングとしても活用できる。

施工面積 82.80㎡(25.04坪)



3×4.5 無駄を排除し、ほどよい広さを追求したタイプ

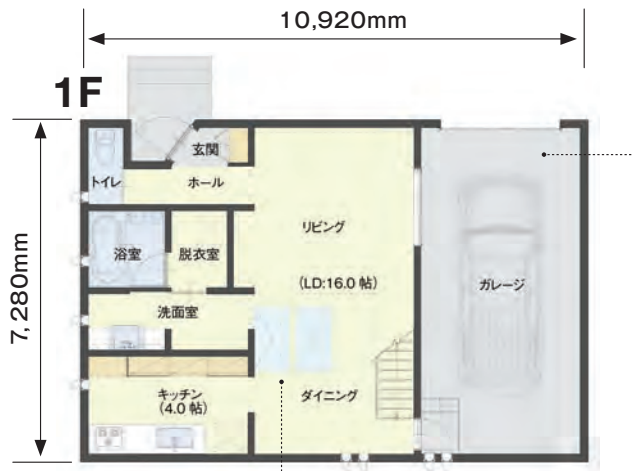
2.5×5の次にコンパクトなプランがこの3×4.5。3×5と間口のサイズは同じだが、奥行きが短いつくり。狭い敷地でもバルコニーと対面キッチンのスペースを確保。より無駄を排除し、ほどよい広さと空間のバランスを追求した間取りになっている。



casa

施工面積 89.42㎡(27.04坪)



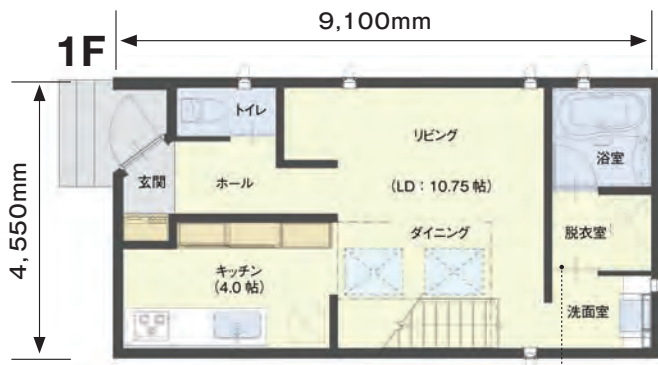


2階のバルコニーが見える
天窓下のダイニング

ガレージは防犯上も安心な
電動シャッターで手間いらず



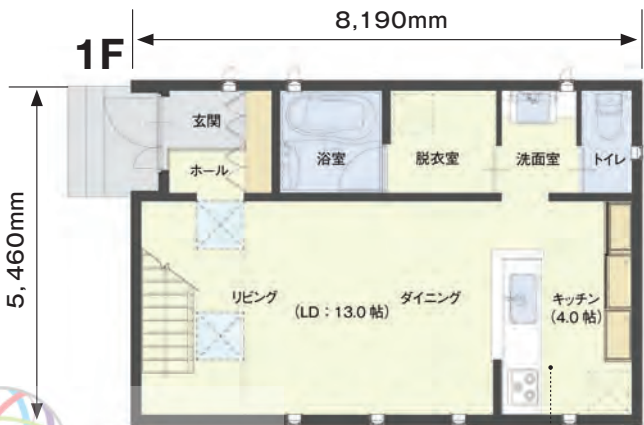
ガーデニングや洗濯物干しなど、
いろいろ使えるバルコニー



脱衣と洗面を分けるというコンセ
プトはしっかりと生かされている



コンパクトな家ながら、
個室は3つ確保



使い勝手がよく、料理が
楽しくなる対面キッチン



2階の部屋に設置された掃き
出し窓から、バルコニーへ



子どもの成長に合わせて 間取りを変えられる「家」

間取りの悩みの大部分が解決

家を建てる際、「間取り」は大きな悩みの一つだ。

近い将来のことを想定して「子ども部屋はいくつ必要かな」とか、はるか先の生活を思い描いて「子どもが進学や就職などで家を出ていくことになったら」とか、考えはじめたらきりがない。先のことは誰にもわからないから悩ましいのだ。

でももし、これから建てる家の間取りがあとから何度でも、自由に変えられるとしたらどうだろう。

間取りの悩みの大部分が解決するのはな

いだろうか。

間取りが変えやすい

casa cube は、家族の成長に合わせて、将来的に間取りを変えやすいつくりになっている。

たとえば casa cube の基本形である4×4のタイプの2階。

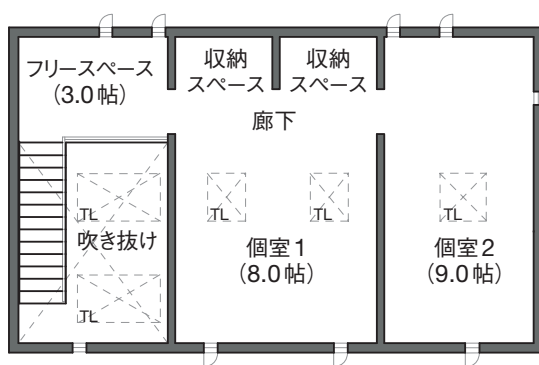
子どもが小さいうちは「家族で川の字になって寝る」とか、「兄弟を同じ部屋で寝かせたい」などといった場合、一部のサイズはそれなりにほしい。このタイプの2階には8畳の部屋があるので、ちょうどいいサイズ感だ。

しかし子どもが大きくなって、たとえば「子ども部屋が二つ欲しい」などというときには、その8帖の洋室を仕切って4帖の部屋を二つ作ることも可能なのだ。

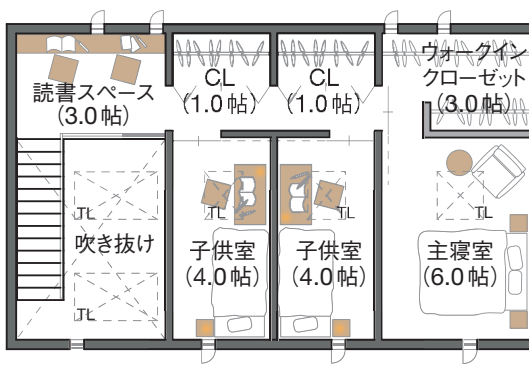
このほかにも3×5のタイプの2階を例にとると（下図）、8帖の部屋にはトップライトが二つあるので、ゆくゆくは部屋を仕切ってやはり「子ども部屋を二つに」とか、「ひとつは書斎に」とか、使い方は自在なのだ。

また、casa cube の2階には、全シリーズフリースペースを設けているので、単純に部屋を増やしたいときにはそのフリースペースを利用することもできる。

BEFORE



AFTER



casa cube 3×5のタイプの2階を例にした、ビフォー・アフター。



価値ある住宅のお値段は？



4×4

販売価格	1550万円（税別）
施工面積	105.98㎡（32.05坪）
建築面積	52.99㎡（16.02坪）
最高高	6980mm
軒高	6265mm



3×5

販売価格	1590万円（税別）
施工面積	99.36㎡（30.06坪）
建築面積	49.68㎡（15.02坪）
最高高	6980mm
軒高	6265mm



4×5

販売価格	1800万円（税別）
施工面積	132.48㎡（40.07坪）
建築面積	66.24㎡（20.03坪）
最高高	6980mm
軒高	6265mm



5×5

販売価格	2000万円（税別）
施工面積	165.62㎡（50.10坪）
建築面積	82.81㎡（25.05坪）
最高高	6980mm
軒高	6265mm

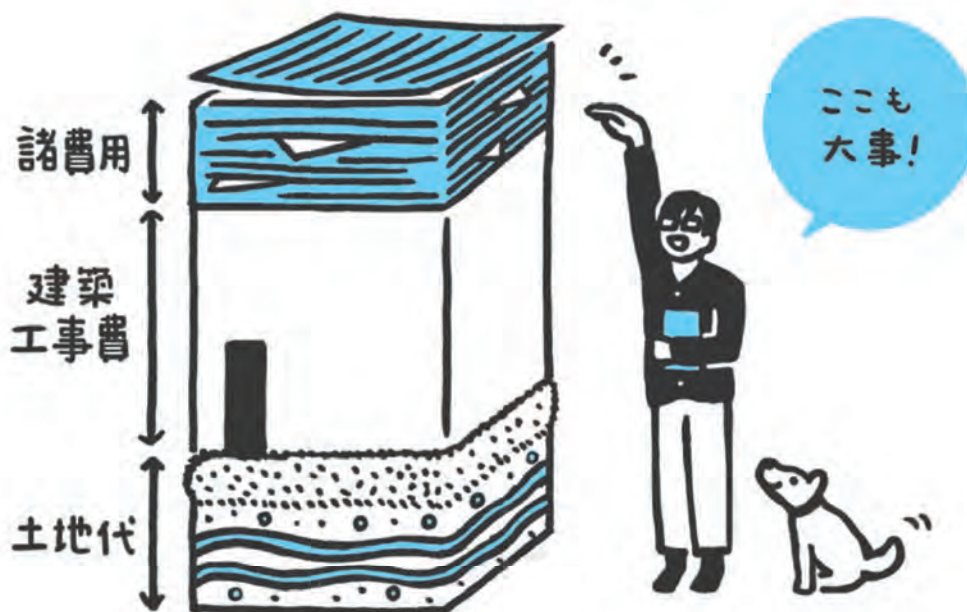


casa

家づくりの諸費用を知ろう

土地代や建築工事費以外にかかる諸費用も意外にばかにならない金額になる。家を建てる前におおまかがかまわないので諸費用の全体像を把握しておこう。

家を建てる際に必要なお金



工事関係の諸費用を把握しよう

家を建てる際、その費用でぱっと思いつくのはやはり建物代（建築費）や土地代のこと。しかし忘れてはならないのが、それ以外にかかる諸費用。各種の税金から登記費用まで、さまざまな費用がかかってくることを知っておこう。

まずは工事に関わる費用から。申請関係の費用では「確認申請手数料」というものがあり、これは建築設計図書の確認申請の手数料のこと。一例を挙げると、延べ面積が30～100㎡で「確認申請手数料」9,400円、「中間検査申請手数料」11,000円、「完了検査申請手数料」11,000円（手数料は面積、用途、地域等によって異なります）。

次に近隣へ挨拶に行く際の「手土産代」。費用の目安としては、建築規模によるものの、おおむね一軒あたり1,000円以内の予算で、タオルをはじめとした消耗品などの類を手土産にする。

このほかに工事関係では「地鎮祭費用」「上棟式費用」「竣工式費用」などもかかってくる（こうした費用は規模によって数万円から十数万円とさまざま）。

登記関係では土地家屋調査士の報酬として「建物表題登記」、このほかに「土地所有権移転登記」「建物所有保存登記」や「抵当権設定登記」などにかかる登録免許税や司法書士への報酬などがある。登記関係で支払う報酬などの費用の目安は20万円前後。ローン関係では申し込みにかかる「手数料」、連帯保証人がいない場合に必要となる

「保証料」、ローン契約者の死亡等に備えて加入する「団体信用生命保険特約料」、火災による被害に備えて加入する損害保険の「火災保険料」などがある。

税金もいろいろかかる

家を建てる時にかかる税金としてはおおまかに、「印紙税」「登録免許税」「不動産取得税」「固定資産税」「都市計画税」の五つ。

「印紙税」は、土地や建物を購入する際に交わすさまざまな契約書にかかる税金のこと。土地の「売買契約書」、建物の「工事請負契約書」、ローンの「金銭消費貸借契約書」などがある。

こうした契約書には収入印紙を貼ることが義務付けられており、消印することによって納付となる。税額は契約書の種類や記載される金額等によって異なる。

「登録免許税」は先にも少し触れたが、土地や建物を取得したときに行う登記に課される税金のこと。

「不動産取得税」は、土地や住宅など不動産を取得した際に課税されるもので、所在地の都道府県に納める。

「固定資産税」は毎年1月1日の時点で、土地・家屋・償却資産（これらを総称して「固定資産」と呼ぶ）の所有者が納める税金。固定資産の価格をもとに算定された税額を、その固定資産の所在する市区町村に納める。「都市計画税」は、都市計画法上の市街化区域内にある土地や建物について、固定資産税と同様にかかる税金。

[諸費用の概要]

項目	種類	概要
工事関係	確認申請手数料	建築設計図書の確認申請の手数料。手数料は面積、用途、地域、審査期間等によって異なる。
	近隣挨拶関係費	近隣への挨拶の手土産代など。規模が大きい住宅の場合は、近隣対策費が別途必要となるケースも。
	地鎮祭費用	地鎮祭にかかる費用で、その一部は施主が負担する。
	上棟式費用	上棟式を行う場合、費用は施主負担となる。現場の職人さんへの茶菓子代などが発生する場合もある。
登記関係	建物表題登記費用	土地家屋調査士に依頼した際の報酬。
	土地所有権移転登記費用／ 建物所有保存登記費用	土地購入時の所有権移転登記と建物完成時の所有権保存登記にかかる登録免許税及び司法書士に依頼した際の報酬。
	抵当権設定登記費用	ローン契約時の抵当権設定登記にかかる登録免許税及び司法書士に依頼した際の報酬。
ローン関係	手数料	フラット35（※）の場合は融資手数料、銀行の場合は事務手数料という。
	保証料	銀行の場合は保証会社に支払うことが多いが、フラット35の場合は不要。
	団体信用生命保険特約料	ローン契約者の死亡等に備えて加入。
	火災保険料	ローンの担保となる住宅が火災による被害を受けた場合に備えて加入する損害保険の保険料。加入を義務付けられていることが通例で、支払いは毎年払いと一時払いがある。
税金	印紙税	土地や建物を購入する際に交わすさまざまな契約書にかかる税金。
	登録免許税	不動産取得の登記にかかる税金。
	不動産取得税	不動産を取得した際に、所在地の都道府県に納める税金。
	固定資産税／都市計画税	土地・家屋・償却資産の所有者が毎年納める税金。
引っ越し費用	引っ越し費用	新居への引っ越しにかかる費用。
建て替え関係	建物滅失登記費用	既存家屋の建物滅失登記に必要な費用。



※住宅金融支援機構及び前身の住宅金融公庫の証券化支援事業をもとに、取り扱い先の民間金融機関と共同で提供する長期固定金利の住宅ローンの名称。

わが家ができるまで

家づくりの流れを把握しよう

家づくりは情報収集からはじまり、資金計画、土地探し、現場工事などと長期にわたるけれど、まずは概要を把握することで、みなさんそれぞれのベストな「建てどき」が見えてくるはず。

[家づくりのスタートから完成までの手順]

項目	内容	支払い例
情報収集	広告やインターネット、モデルハウス見学などで情報を集める。	
資金計画	総費用を見積もり、自己資金と月々の支払い可能な金額を考慮し、住宅ローンなどを試算する。	
土地探し	法的規制や接する道路の幅員、土地の形状や方位、周辺状況などが、希望と合うか考慮して探す。	
土地売買契約	仲介業者立ち会いのもと、土地の所有権の移転を受ける契約の締結を行う。	土地代
敷地調査	住宅を建てるのに、どのような条件下・環境の土地なのかを調査する。	
依頼先の決定	住宅会社や工務店、建築士などから希望のプランの見積もりを取り、依頼先を決定する。	着手金
建築プランの調整	設計プランを詰め、仕様を決める。信頼関係を築いていけそうなら、建築設計・監理等業務委託契約を結ぶ。	設計料
確認申請	設計が決まったら、建築予定地がある役所に確認申請をする。	申請手数料
住宅ローン申請	住宅ローンの申請を行う。	
地鎮祭	工事の無事と安全、建築後の家内安全を願って儀式を行う。	地鎮祭費用
着工	工事着手金（工事請負金額の4分の1程度）を支払い、工事を開始する。	工事着手金
上棟式	基本構造が完成した時点で行う儀式。家への祝福と職人をねぎらい、建物の無事完成を祈願する。	上棟式費用
中間検査申請	構造や施工の状況が建築基準法に適合しているかを建築主事または指定確認検査機関に申請し、検査を受ける。	申請手数料
木工事完了	大工工事がおおむね終了し、仕上げ工事にかかる。	工事中間金
完了検査申請	工事完了時、法令に適合しているかの検査を受け、検査済証を交付してもらう。	申請手数料
竣工検査 および引き渡し	施主、建築設計・監理者、施工者の3者で、図面どおりに施工されているかなどを検査する。	工事残金
登記	建物の表題登記、所有権保存登記を行う。	



cesa

[工事現場の流れ(一般的な例)]

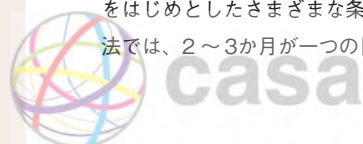
期間	0～1か月	1～2か月	2～3か月
仮設工事・基礎工事	←→		
主体(躯体)工事		←→	
仕上げ工事			←→
現場スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ● 地鎮祭 ● 基礎工事 	<ul style="list-style-type: none"> ● 建て方 ● 屋根工事 ● 木工事 ● 内部設備工事 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各職人による仕上げ工事 ● 外構工事 ● 照明器具、設備器具などの取付け ● 完了、引き渡し
竣工スケジュール 行事・儀式など	<ul style="list-style-type: none"> ● 近隣挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上棟式 ● 中間検査(法) ● 現場審査(申請による) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 竣工検査 ● 完了検査(法) ● 引っ越し ● 近隣挨拶 ● 各種手続き

工事現場の流れを把握しよう

間取りを考えたり、見積もりをチェックしたりといったことだけが家づくりではない。実際の工事もまた家づくりの大切なプロセスのひとつ。たしかに工事現場は、素人にはわからないことだらけかもしれないが、時間の許す限り現場に足を運ぶことも重要。

ここでは工事のおおまかな流れをまず把握しよう。近隣への挨拶から始まり、地鎮祭や屋根工事、引き渡しに至るまでの過程を駆け足で紹介している。

着工から引き渡しまでの期間は、工法や規模はもちろん、建築業者をはじめとしたさまざまな条件で変わってくる。一般的な木造軸組構法では、2～3か月が一つの目安となる。



知っておきたい

家づくりのマナー

工事が始まる前に行う近隣への挨拶や地鎮祭等の儀式など、
知っておいて損はないマナーをおさらいしておこう。

挨拶の書面の一例

工事前の挨拶

工事が始まる前の近隣への挨拶まわりは必須。工事が開始される1～2週間前に行う。工事責任者と一緒に訪問して、日程や車両の出入りをはじめとした簡単な工事の説明をし、騒音や振動などで迷惑をかけることを伝える。

挨拶時には、粗品を持参することが一般的。高価な品は必要なく、タオルや菓子折りなどを用意する。その際、のし紙に「御挨拶」と記すことを忘れずに。

何度訪問しても不在の家には右記のような手紙を投函しておくといよ。

ご近隣のみなさま

【〇〇邸 新築工事のお知らせ】

このたび〇〇邸の新築工事が〇〇年〇月〇日から着工の運びとなり、ご挨拶に伺いました。

ご近隣のみなさまには工事期間中、ご迷惑をおかけいたします。何かとご不便をおかけいたしますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

工事場所 〇〇県〇〇市〇〇町〇ー〇

工事期間 〇年〇月〇日～〇月〇日

工事時間 平日朝〇時～夕方〇時

工事中は工事車両が下記（地図）の進入路を通ります。

みなさまには何かとご迷惑をおかけしますことを、重ねてお詫び申し上げます。

〇年〇月〇日

建築主 〇〇〇〇

施工者 株式会社〇〇工務店

TEL 〇〇-〇〇-〇〇

MAP



引っ越しの挨拶

引っ越した日は何かと忙しいが、できれば引っ越しの当日に、近隣への挨拶を済ませておくことが望ましい。挨拶してまわる範囲は、向こう三軒両隣というのが一般的だが、離れた家でも工事期間中に迷惑をかけたようなお宅にはきちんと挨拶しておこう。既婚者の場合は夫婦揃って挨拶に行くのが通例。

ご丁寧にありがとうございます。こちらこそよろしくお願ひします。

隣に引っ越してきた〇〇です。よろしくお願ひします。



地鎮祭（神式の一例）

工事の安全を祈願する「地鎮祭」。地元の神社から神主を招いてお祓い、お清めをしてもらう。参加者は施主とその家族と、工事関係者。

神主へのお礼、棟梁などへの祝儀は1～2万円前後が相場。日取りはやはり大安などの吉日が望ましい。

地鎮祭のおおまかな流れは下記の通り。ただし、実際にはもう少し簡略化した形式で行われることも多く、地域によりしきたりの違いもあるので、事前に相談しておくことがベター。



修祓の儀（しゅうふつのぎ） 降神の儀（こうしんのぎ）	軽く頭を下げ、神主にお祓いを受ける。	
献饌の儀（けんせんぎのぎ）	お神酒の瓶子のフタを取ってお供えの印とし、お神酒を盛り土にかけて清める。	
祝詞奏上（のりとそうじょう）	神主が祝詞を奏上する。	
刈初めの儀（かりぞめのぎ）	設計者が鎌を持って、盛り土に草を刈る所作を三度行う。	
穿初めの儀（うがちぞめのぎ）	施主が鋤を持って、盛り土の土を掘る動作を三度行う。次に工事責任者が鋤を持って、盛り土の土をすくう動作を三度行う。	
玉串奉奠（たまぐしほうてん）	神主から玉串を受け取り神前に捧げ、二拝二拍手一拝する。	
撤饌の儀（てっせんぎのぎ）	神主が瓶子のフタを閉め、祝詞を奏上する。	
神酒拝戴（しんしゅはいたい）	儀式の後、お神酒と酒肴で祝う。	

上棟式

土台の上に骨組みを組み立てる「建て方」の後に行われる「上棟式」。職人へのねぎらい、新しい家への祝福、これからの工事の無事を祈願する儀式だ。

本式では地鎮祭と同じように神主が執り行う儀式だが、近年では棟梁が代理で行うケースが多い。

祝儀は棟梁や鳶の頭に2万円前後が一般的。祝宴のお酒や料理の手配なども忘れずに。



棟木に魔除けの幣串を鬼門の方角に向けて立てる。

骨組みに板をわたし祭壇をつくり、供え物をする。棟梁が祭壇に二拝二拍手一拝する。

棟梁が四隅の柱の根本にお神酒や塩などをまいて清める。

残ったお神酒を配り、みんなで乾杯したのち、祝宴を設けて職人をねぎらう。



casa 特別編集号

シンプルで美しい、四角い家

カーサ キューブ
casa cube

アイ ラブ デザイン アイ ラブ キューブ
I LOVE DESIGN. I LOVE □.

2018年8月1日 第1刷発行

●発行人・編集人●

縣 桂一郎

(カーサ・プロジェクト)

●制作●

bueno

© BOND PROJECT 2018 Printed in Japan

ISBN 978-4-908042-04-1

●発行所●

ボンドプロジェクト株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-47-11 青山学院アスタジオ 402

TEL 03-6869-7046 FAX 03-6869-7047

www.bond-p.com



乱丁、落丁本はお取り替えいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。